CONTAX NX

このたびは、コンタックスNXをお買い上げいただきありがとうございます。このカメラは『作品を作るカメラ』であるコンタックスの基本思想を継承しながら、オートフォーカス（AF）／マニュアルフォーカス（MF）を被写体に応じて使い分け、作画意図に的確に対応できるオートフォーカス一眼レフシステムカメラです。
ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取り扱いで末永くご愛用ください。

このカメラは標準撮影機能以外に特別にセットできる“カスタム機能”を搭載しています。詳しくはP87をご覧ください。
本文中の“ CF ”マークはカスタム機能で設定できる項目です。

安全に関する表示について

この取扱説明書では、このカメラを安全に使用していただくために、次のような表示をしています。内容をよくお読みいただき、正しく使用してください。

⚠ **注意**	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定されることを示します。
⚠ **警告**	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

取り扱い上のご注意

〈カメラ使用上のご注意〉

●レンズやファインダー接眼部などにゴミ・ホコリがある場合は、ブロワーで吹き飛ばすか、柔らかいレンズ刷毛で軽く払い、指紋などがついた場合はむやみに拭かず、市販のレンズ紙などで軽く拭いてください。またミラー面のゴミやホコリは、レンズ刷毛で軽く払う程度にしてください。
●本体の汚れを落とすときは、柔らかな布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は本体破損の原因になりますので、絶対に使用しないでください。

⚠ **注意**	●海岸やほこりの多い所での撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は金属を腐食し電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙発火を起こすこともあります。また砂ぼこりは内部機構の作動不良を起こします。 ●寒いところから急に暖かい室内に持ち込むと、レンズがくもることがあります。しばらくするとくもりは消えますが、繰り返し行うとレンズやボディ内部に水滴が生じます。水滴は電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。急激な温度変化はできるだけ避けてください。 ●直射日光の当たる場所に放置しないでください。太陽光が近くの物に結像すると、破損や火災の原因になります。レンズキャップを付ける、または直射日光を避けて保管してください。 ●カメラは精密な電子機器です。電子回路の断線による発煙・発火や機構の破損の原因となる落下や衝撃は避けてください。 ●**海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてから使用してください。また、予備の電池を携行してください。**

⚠ **警告**	●カメラや電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、速やかに電池を取り出してください。火災や火傷の原因となります。（電池を取り出す際、火傷には十分ご注意ください。） ●水などが直接かかる場所や湿気の多い場所、または濡れた手で本機を使用しないでください。感電や電子回路のショート、発熱、発煙、発火、腐食による故障の原因となります。（雨天、降雪中、海岸、水辺などでの使用は特に注意してください。） ●引火性ガスの発生するような場所では使用しないでください。発火事故の原因になります。 ●カメラを分解、改造しないでください。高電圧がかかり感電する恐れがあります。 ●本機内部には高電圧回路が組み込まれています。落下などにより破損したとき、内部には絶対に手を触れないでください。感電する恐れがあります。 ●ストロボ撮影時、ストロボを人の目（とくに乳幼児）に近づけて撮影しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。 ●カメラで、太陽や強い光源を直接見ないでください。視力障害を起こす危険性があります。

⚠ 警告	●移動しながらの撮影はおやめください。特にファインダーを覗きながら移動すると事故の原因になります。 ●撮影時は被写体に気をとられすぎずに、周囲の状況にも十分注意をはらってください。 ●本機を幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。また幼児・子供の近くで使用するときは、細心の注意を払い、不用意に本機から離れないでください。幼児・子供は安全警告・注意の内容が理解できませんし、加えて以下のような事故の恐れがあります。 ・本機を落としたり、倒したりしてケガをする。 ・誤ってストラップを首に巻き付け窒息を起こす。

〈シャッター幕について〉
シャッター幕は非常に薄い材質でできています。絶対に指で突いたり触れたり拭いたりしないでください。フィルム交換の際はフィルム先端がシャッター幕に触れないようご注意ください。またブロワーで吹く際は強く吹かないでください。強く吹くと変形や破損の恐れがあります。ボンベタイプのブロワーは絶対に使わないでください。

〈マイクロコンピューターの保護回路について〉
このカメラは外部の強力な静電気に対して、内部のマイクロコンピューターを保護するための安全回路を内蔵しています。この安全回路の働きにより、極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合は、メインスイッチをOFFにし、一旦電池を取り出して、もう一度入れ直してからご使用ください。

〈赤外線フィルム撮影について〉
このカメラの特性上、赤外線フィルムは使用できませんのでご注意ください。

〈カメラの保管について〉

●暑い場所（夏の海辺、直射日光下の車内など）に長時間おいておくと、フィルムや電池の性能を低下させ、カメラにも悪影響を及ぼしますので放置しないでください。
●カメラを長期間使わないときは電池を取り出しておいてください。電池の液漏れなどによる事故を防ぎます。

⚠ **注意**	●カメラは湿気やほこりのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱うところを避け、風通しの よいところに保管してください。電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。

〈電池取り扱い上のご注意〉

●電池は一般に、低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地での使用の前後はカメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温してください。なお低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
●電池の＋－極が汗や油などで汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾布でよく拭いてから使用してください。
●長期の旅行などには、予備の新しい電池を用意してください。
●電池の＋－を間違えて入れるとカメラは作動しません。

⚠ **注意**	●金属製のピンセットのような導電性のあるもので電極に触れないでください。電池の消耗を早めるだけでなく、ショートして危険です。

⚠ **警告**	●次のようなことは絶対にしないでください。電池が破裂し火災、けがや周囲を汚損する原因となります。 ①このカメラで指定されている電池以外は、使用しないでください。 ②電池を火の中に入れたり、充電ショート、分解、加熱は絶対にしないでください。 ③新しい電池と使用した電池、違うメーカーや他の種類の電池を混ぜてつかわないでください。 ④CR2（3Vリチウム電池）は充電禁止です。絶対に充電しないでください。 ●電池を廃棄する場合は、接点にテープを貼るなど絶縁してください。廃棄後他の金属と接触すると、破裂、発火の原因となります。 ●電池は幼児の手の届かないところに置いてください。万一電池を飲み込んだ場合、電池が壊れて電池の液で胃、腸などが損傷する恐れがありますので、直ちに医師と相談してください。

目次

各部の名称

ABC/ ボタン (P62,75)
モードボタン (P30)
表示パネル (P10)
Rダイヤル (P29)
ライトボタン (P12)
ストラップ取付金具 (P14)
シャッターボタン (P27)
メインスイッチ (P26)
Fダイヤル (P29)
セルフタイマーLED (P65)

専用ストロボ接点 (P76)
ダイレクトX接点 (P81)
アクセサリーシュー (P76)
内蔵ストロボ (P72)
レンズ指標 (P18)
レンズ取り外しボタン (P18)
マウント (P18)
絞り込みボタン (P68)
AF補助光 (P38)

フィルム確認窓
裏ぶたロック解除ボタン (P20)
裏ぶた開放レバー (P20)
シンクロターミナル (P81)
ケーブルスイッチソケット (P97)
アイカップ F-3 (P15)
電池ぶた/電池室 (P16)
巻き戻しボタン (P24)
三脚ねじ穴

ファインダー接眼部 (P11)
DX接点 (P22)
フィルム室 (P20)
ケーブルスイッチソケット (P97)
フィルム固定軸 (P20)
データバック用接点 (P96)
シャッター幕 (P20)
フォーカスフレーム選択レバー (P40)
Rダイヤル (P29)
フォーカスボタン (P45)
裏ぶた着脱ピン (P69,96)
裏ぶた (P21)
フィルム先端マーク (P21)
スプール (P21)

表示パネルおよびファインダー内表示

（表示内容は次の通りです。この図は説明のために全情報を表示したもので実際の表示とは異なります。）

〈ファインダー内表示〉

〈ファインダー内表示〉

- ストロボマーク (P72,76)
- 内蔵ストロボ補正マーク (P75)
- フォーカス表示 (P40)
  “○” 点灯：合焦
  “○” 点滅：合焦不能
- 測光モード (P48)
  ・評価測光
  ・中央重点平均測光
  ・中央部部分測光
- AEロック (P60)
- 露出補正 (P58)
- シャッタースピード (P52)
- 絞り値 (P51)
- マニュアル露出 (P55)
- フィルムカウンター (P21)
- セルフタイマー時間 (P65)
- ABC撮影順序 (P62)
- フィルム装着状況 (P21)
- 露出補正値 (P58)
  ・1/3EV表示
  ・1/2EV表示
- 露出メーター (P55)
- 測光差 (P87)

ファインダー内表示は、ピント合わせ状況、絞り、シャッタースピード、などの表示の他に、露出メーターやフィルムカウンターなどが表示される、情報集中ファインダーです。
ファインダー内表示は、次の操作をしたときに表示され16秒間表示したあと自動的に消える省電設計になっています。
①メインスイッチをONしたとき。
②メインスイッチONの状態で、シャッターボタン半押しで表示されます。
また表示中にダイヤル等を切り替えたときは、表示はさらに16秒間延長されます。

“CF”表示時間を変更することができます。(パワーホールド時間の変更P87)

●次の場合はファインダー内表示が消灯します。
“撮影中”、“撮影フィルム終了”、“巻き戻し中”、“巻き戻し完了”、“空送り失敗”、“電池容量なし”

〈表示パネルの照明〉

表示パネルには照明機能が付いています。“LIGHT”ボタンを一度押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。点灯してから16秒経過すると自動的に消灯します。

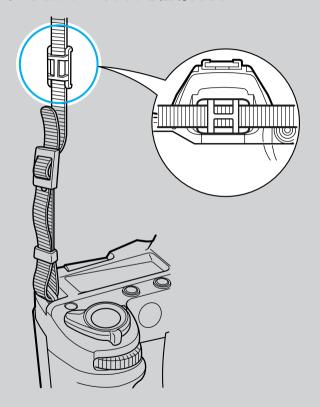
● 表示パネルが照明されている間に他のダイヤルやボタンを操作すると照明時間は延長されます。撮影開始と同時に表示パネルの照明は消えます。

“CF”照明時間を変更することができます。
(パワーホールド時間の変更P87)

撮影前の準備

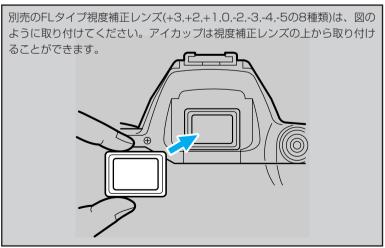
ここでは、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことを説明します。初めてのかたはここから順番にお読みください。
カメラの取り扱いの基礎知識をお持ちで、すぐに撮影を始めたい方は、P35の『簡単な撮影方法』をご覧ください。

1. ストラップと逆入光防止アダプターの取り付けかた

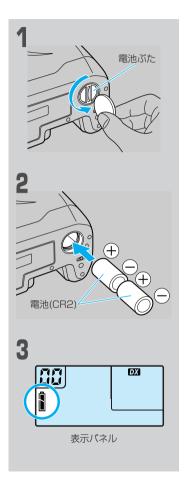
同梱の逆入光防止アダプターは、先にストラップに通しておきます。あとは図のようにしてカメラにストラップを取り付けます。

セルフタイマー撮影など、ファインダー接眼窓から目を離す撮影では接眼窓からの入射光の影響で適正露出が得られないことがあります。このような場合は、逆入光防止アダプターを接眼窓に取り付けて撮影してください。

2. アイカップ／視度補正レンズの取り付けかた

アイカップ F-3は図のように取り付けてください。

別売のFLタイプ視度補正レンズ(+3,+2,+1,0,-2,-3,-4,-5の8種類)は、図のように取り付けてください。アイカップは視度補正レンズの上から取り付けることができます。

3. 電池の入れかたと容量確認

〈電池の入れかた〉

メインスイッチをOFF にしてから行ってください。

1 電池ぶたを開けます。

硬貨などを利用し、矢印方向に回して開けてください。

2 3Vリチウム電池(CR2)2本を電池室内表示に従って正しい向きで入れます。

● 電池の向きを間違えると、カメラが作動しないばかりでなく、故障の原因となることがあります。

3 電池ぶたを元通りに閉めます。

表示パネルに“ ▮ ”電池マークが表示されます。

● 新しい電池でも、連続撮影中や内蔵ストロボを続けて発光させた時および低温での撮影において、一時的に電圧が低下し“ ▮ ”が点灯することがあります。このようなときには、メインスイッチのOFF⇔ONを2～3回くり返してください。この操作で“ ▮ ”が点灯すれば電池容量は十分あります。

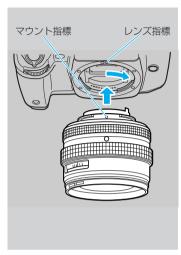
〈電池の容量確認〉

“ ” 電池マークの意味は次の通りです。メインスイッチをONにして確認してください。

メインスイッチON時の表示	表示の意味
	電池の容量は十分です。
	新しい電池を用意してください。
（点滅）	新しい電池と交換してください。
（点滅）	カメラは作動しません。

4. レンズの取り付けかた／取り外しかた

〈取り付けかた〉

1 カメラのボディキャップとレンズの後キャップを外します。

2 レンズのマウント指標をカメラのレンズ指標に合わせてはめ込み、時計方向に“カチッ”と音がして止まるまで回して取り付けます。

● レンズはコンタックスNマウントレンズをご使用ください。
● マウントアダプターNAM-1を使用すると、コンタックス645システムのレンズが使用できます。(P102)

〈取り外しかた〉

レンズ取り外しボタンを押しながらレンズを反時計方向に止まるまで回し、前方に引き出して外します。

● レンズ着脱の際、レンズ面やボディ内部に触れないでください。
● フィルムが入っている状態でレンズを着脱するときは、直射日光を避けてください。

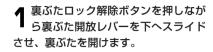
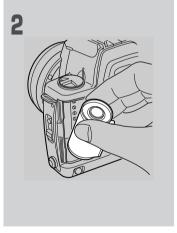
5. カメラの構えかた

①脇をしめてカメラを安定させる。
②写す瞬間、呼吸を止める。
③手にあまり力を入れず、静かに
　シャッターボタンを押す。

ピントが合った美しい写真を撮るためには、カメラをしっかり構えることが大切です。ピントが悪い写真の多くはカメラぶれが原因です。
カメラは横位置の他、状況により縦位置で構えますが、いずれも自分にあった姿勢を研究してください。建物や木立などを利用して身体やカメラを支えることも効果的な方法です。

●暗いところの撮影などでシャッタースピードが遅くなるときは、カメラぶれ防止のため三脚をご使用ください。

6. フィルムの入れかた

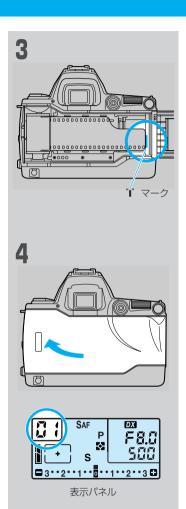
1 裏ぶたロック解除ボタンを押しながら裏ぶた開放レバーを下へスライドさせ、裏ぶたを開けます。

- フィルムを入れるときは、カメラの内側に入っている『保護シート』を必ず取りはずしてください。
- DX接点やデータバック用接点は、むやみに触れたり、汚したりしないように注意してください。
- フィルムの出し入れは、直射日光を避けてください。

2 図のように、フィルムを斜めにして入れます。

フィルムパトローネの凸部にフィルム固定軸を差し込むようにして入れます。

シャッター幕について

シャッター幕は精密部品ですので絶対に指で触れたりフィルムの先端でついたりしないでください。特にフィルムの先端がシャッター幕の上にある状態では、絶対にシャッターを切らないでください。

3

“I” マーク

3 フィルムの先端をオレンジ色の“I”マークの位置まで引き出し、そのままスプールの上にのせます。

このとき図のようにフィルムが浮き上がらないようにしてください。

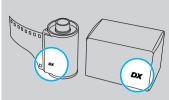
● フィルムの先が長く出ている場合はそのまま入れず、パトローネに巻き戻して長さを調節してください。

4

表示パネル

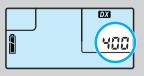
4 裏ぶたを確実に閉め、メインスイッチをONにしてシャッターボタンを押します。

フィルムが自動的に１コマ目まで空送りされ、フィルムカウンターは“01”になります。

● フィルムカウンターが“00”のままで点滅している場合は、フィルムが正しく送られていません。裏ぶたを開け、もう一度入れ直してください。

DXコード付フィルム

〈フィルム感度の確認〉

ポジションダイヤル

表示パネル

フィルム感度

〈フィルム感度の自動設定〉

表示パネルに“DX”が表示されているときは、カメラがDXコードを読み取りフィルム感度を自動セットします。

自動セットされるフィルム感度の範囲はISO25〜5000です。

- DXコードのないフィルムを入れると、ISO100に自動セットされます。
- 表示パネルに“DX”が表示されていないときは、必ずフィルム感度を手動でセットしてください。（P23参照）

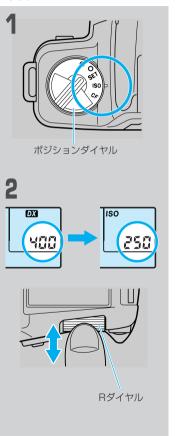
〈フィルム感度の確認〉

カメラにセットされているフィルムの感度を確認するには、ポジションダイヤルを“ISO”にします。

表示パネルに“DXまたはISO”とセットされているフィルム感度が表示されます。

7. フィルム感度の手動設定

DXコードのないフィルムのフィルム感度のセットや、DX表示と異なる感度に設定する場合は次のようにします。

●設定できるフィルム感度の範囲はISO 6～6400です。
●任意の感度にセットすると、DXコード付フィルム使用時も手動セットした値になります。

1 **ポジションダイヤルを“ISO”にセットします。**

表示パネルに“DX”または“ISO”と“フィルム感度”が表示されます。

2 **Rダイヤルを動かして、フィルム感度を、合わせたい感度値にします。**

DX←→6←→8←→10←→・←→5000←→6400←→DX←→6（繰り返し）

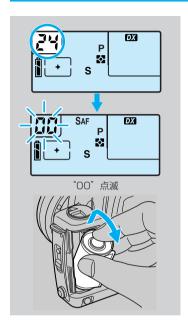
● DXに合わせると自動設定になります。

3 **ポジションダイヤルを“○”（白）または“●”（緑）に戻してください。これでセット完了です。**

表示は通常表示に戻ります。

● セットしたフィルム感度は、次にセットし直すまで記憶されています。
● ポジションダイヤルが“SET”、“ISO”、“CF”のときは撮影できません。

8. フィルムの取り出しかた

“00”点滅

フィルムを全部写し終えると、自動的に巻き戻しが始まります。
巻き戻し中はフィルムカウンターが減算表示し、巻き戻しが終了するとモーターが停止しフィルムカウンターが“00”で点滅します。
モーターが停止し、フィルムカウンターが“00”で点滅していることを確認してから、裏ぶたを開けてフィルムを取り出してください。

- フィルムの取り出しは直射日光を避けてください。
- 巻き戻し後は、必ずフィルムを取り出してください。巻き戻し後は、一度裏ぶたを開けるまでカメラは作動しません。
- 取り出したフィルムは早めに現像に出しましょう。
- 規定枚数以上撮影すると、最後のコマは現像処理段階でカットされることがあります。

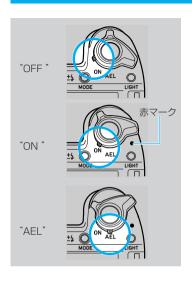
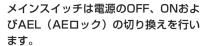
〈フィルムの途中巻き戻し〉

撮影の途中でフィルムを巻き戻すときは、メインスイッチONの状態で、爪の先やコインなどを利用し、底面の巻き戻しボタン“R”を押して下さい。(針などの鋭く尖ったものでは押さないでください。)

“CF” 自動巻き戻しをしない設定もできます。(P88)
この設定ではフィルムを全部写し終えると、巻き上げが止まりフィルムカウンターの上桁下桁が交互に点滅します。〈フィルムの途中巻き戻し〉と同じ方法で巻き戻してください。
“CF” 巻き戻し時、フィルムの先端をパトローネの外に残すことができます。(P88)

基本的な操作

1. メインスイッチ

メインスイッチは電源のOFF、ONおよびAEL（AEロック）の切り換えを行います。

● 誤作動を防ぐため、メインスイッチはクリックの位置に止めてご使用ください。

OFF：赤マークが見えない時
カメラの電源が切れ、OFFの状態になっています。

ON：カメラの電源が入ります。

AEL：逆光での撮影や、動く被写体を一定の露出で連続撮影するなど、露出を固定（AEロック）したいときに使います。(P60)

パワーON 状態

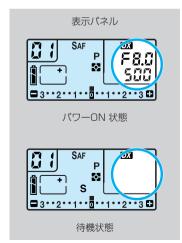
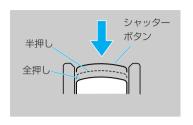
待機状態

〈パワーホールド時間について〉

なにも操作をせずに16秒間経過すると省電のため待機状態になります。待機状態では次のようになります。

① ファインダー内表示が消えます。
② 表示パネルの絞り値およびシャッタースピードが消えます。
③ Fダイヤル、Rダイヤルの操作は受け付けません。

また、シャッターボタン半押しで再び表示されます。

" CF " パワーホールド時間を変更することができます。(P87)

2. シャッターボタン

シャッターボタンの操作は2段階になっています。
シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内表示が点灯し、オートフォーカスや測光機能が作動します。さらにシャッターボタンを押し込む（全押し）とシャッターが切れ撮影が行われます。

- フィルムを入れる前に、実際にシャッターボタンを押して、半押しの感覚をつかんでください。
- シャッターボタンはカメラぶれ防止のためにも、指の腹で静かに押してください。

3. ポジションダイヤル

ポジションダイヤルには“○”（白）、“●”（緑）、“SET”、“ISO”、“CF”の5つのポジションがあります。

〈1.撮影ポジション〉

撮影を行うポジションです。“○”（白）と“●”（緑）の2つがあります。

“○”（白）： 使用している撮影モード（フォーカス、露出、測光、ドライブ）を記憶しています。メインスイッチをONした時、前回使用していた撮影モードで始まります。

“●”（緑）： メインスイッチをONした時の撮影モード（フォーカス、露出、測光、ドライブ）が常に同じ組み合わせになります。

工場出荷時のモード内容は、フォーカスモード“ **SAF** ”、露出モード“ **P** ”、測光モード“ [測光アイコン] ”、ドライブモード“ **S** ”になっています。
また、ご自身の好みのモード内容に変更することができます。(P31, 37)

〈2.SETポジション〉

“●”（緑）の内容を設定するポジションです。

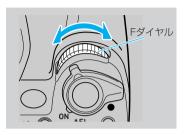
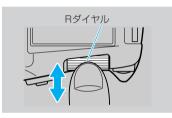
〈3.ISOポジション〉

ISO感度（フィルム感度）の確認、及び手動でISO感度を設定する時に使用します。

〈4.CFポジション〉

“ CF ”（カスタムファンクション）を設定する時に使用します。（P86）

4. Fダイヤル／Rダイヤル

Fダイヤル（フロントコマンドダイヤル）、Rダイヤル（リアコマンドダイヤル）は各種の設定に使用します。

Fダイヤル（フロントコマンドダイヤル）

- 露出補正
- 撮影モード（フォーカスモード、露出モード、測光モード、ドライブモード）の選択
- ABC設定
- 内蔵ストロボ調光補正
- “CF” カスタムファンクションの設定

Rダイヤル（リアコマンドダイヤル）

- シャッタースピード
- 撮影モード（フォーカスモード、露出モード、測光モード、ドライブモード）の選択
- ISO感度の設定
- “CF” カスタムファンクションの設定

5. モードボタンとモード内容

モードボタン

フォーカスモード、露出モード、測光モード、ドライブモードの切り替えを行う時に使用します。
“MODE”ボタンを押しFダイヤル、Rダイヤルでセットします。

[モード内容]

〈1.フォーカスモード〉

・ **SAF** ：**シングル・オートフォーカス（P41）**
静止している被写体の撮影など一般的な撮影の場合におすすめします。

・ **CAF** ：**コンティニュアス・オートフォーカス（P41）**
動きのある被写体を連続的に追う場合におすすめします。

・ **MF** ：**マニュアルフォーカス（P44）**
手動でピント合わせを行いたい時にご使用ください。

〈2.露出モード〉

・ **Av** ：**絞り優先オート（P51）**：絞りを決めてオート撮影する時
・ **Tv** ：**シャッター優先オート（P52）**：シャッタースピードを決めてオート撮影する時
・ **P** ：**プログラムオート（P53）**：カメラまかせのオート撮影をする時
・ **M** ：**マニュアル露出（P55）**：自分で露出（絞りとシャッタースピード）を決めて撮影する時

〈3.測光モード〉（P48）

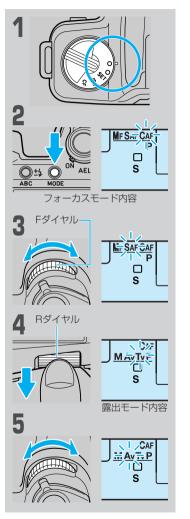
・ ：評価測光　・ ：中央重点平均測光　・ ：中央部部分測光

〈4.ドライブモード〉（P45）

・ **S** ：**1コマ撮影**
カメラのシャッターボタンを押すごとに1コマ分撮影され、次の巻き上げが行われて停止します。

・ **C** ：**連続撮影**
カメラのシャッターボタンを押している間、最高約2.3コマ／秒の連続撮影ができます。（撮影コマ速度は、シャッタースピードやフィルム感度、データバックの写し込みあり／無し、使用する電池の状態などにより変化します。）

・ ：**セルフタイマー撮影(P65)**
セルフタイマー撮影になります。

6. モード内容の切り替えかた（フォーカスモード、露出モード、測光モード、ドライブモード）

1 メインスイッチを“ON”にし、ポジションダイヤルを“○”（白）または“●”（緑）にします。

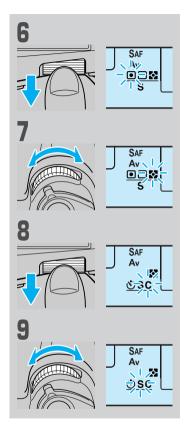
2 モードボタンを押します。

表示パネルに“フォーカスモード内容”が表示され、現在設定されているフォーカスモードが点滅します。

3 Fダイヤルを回して希望のフォーカスモードを点滅させます。（フォーカスモード内容の選択）

4 Rダイヤルを矢印方向に回して“露出モード内容”を表示します。

表示パネルに“露出モード内容”が表示され、現在設定されている露出モードが点滅します。

5 Fダイヤルを回して希望の露出モードを点滅させます。（露出モード内容の選択）

6 **Rダイヤルを矢印方向に回して“測光モード内容”を表示します。**

表示パネルに測光モード内容”が表示され、現在設定されている測光モードが点滅します。

7 **Fダイヤルを回して希望の測光モードを点滅させます。（測光モード内容の選択）**

8 **Rダイヤルを矢印方向に回して“ドライブモード内容”を表示します。**

表示パネルに“ドライブモード内容”が表示され、現在設定されているドライブモードが点滅します。

9 **Fダイヤルを回して希望のドライブモードを点滅させます。（ドライブモード内容の選択）**

10 **モードボタンを押すと通常の表示に戻り、設定完了です。**

選択した各モード内容が表示されます。

● シャッターボタン半押しでも設定完了できます。

7. ABC/ ±⚡ ボタン

ABC/ ±⚡ ボタン

ABC設定 (P62) を行う時に使用します。ABCボタンを押し、Fダイヤルでセットします。また、内蔵ストロボの光量補正にも使用します。(P75)

8. フォーカスボタン

フォーカスボタン

オートフォーカス時にはフォーカスロックに使用します。(P43)
またマニュアルフォーカス時にはワンショットオートフォーカスとして使用します。(P45)

9. シンクロ切り替えスイッチ

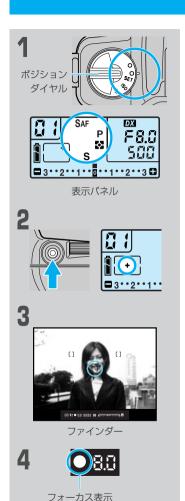
シンクロ切り替えスイッチ

先幕シンクロ(NORMAL)／後幕シンクロ (P84) の切り替えを行います。
通常は“NORMAL”で使用します。

簡単な撮影方法

“○”（緑）ポジションを利用した簡単撮影

“○”（緑）ポジションを利用して簡単な撮影をしてみましょう。初めてカメラをお使いになるかたや、露出や各種モード内容設定を気にせず気軽に撮影したいかたにおすすめします。

“◯”（緑）ポジションを利用した簡単撮影

1 メインスイッチを“ON ”にし、ポジションダイヤルを“◯”（緑）にします。

このカメラは工場出荷時にモード内容が次のようにセットされています。

① フォーカスモード：SAF
② 露出モード：P
③ 測光モード：
④ ドライブモード：S

● モード内容が表示パネルに表示されます。表示が上記モード内容と異なるときは、次ページの〈“◯”（緑）ポジションのモード内容変更〉に従って設定し直してください。

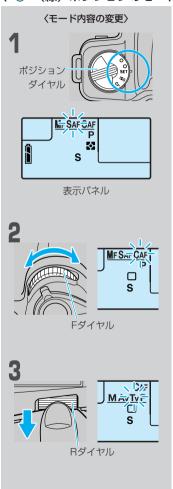
2 フォーカスフレーム選択レバーをプッシュして中央部を選択します。

表示パネルに選択位置が表示されます。ファインダー内では選択したフォーカスフレームが一瞬赤く点灯します。

3 ファインダー内中央のフォーカスフレームを被写体に向けてシャッターボタンを半押しします。

4 ピント合わせが行われ、被写体にピントが合うと、中央のフォーカスフレームが一瞬赤く光って「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内のフォーカス表示“○”が点灯します。

5 そのままシャッターボタンを押し込んで撮影します。

（◯”（緑）ポジションでは、メインスイッチをONした時の撮影モード（フォーカス、露出、測光、ドライブ）が常に同じ組み合わせになります。）

〈“◯”（緑）ポジションのモード内容変更〉

“◯”（緑）ポジションのモード内容変更は次のようにします。ご自身のオリジナルモード内容にして撮影をお楽しみください。

1 **メインスイッチを“ON”にし、ポジションダイヤルを“SET”にします。**
表示パネルの表示がモード内容表示になり、現在設定されているフォーカスモード内容が点滅します。

2 **Fダイヤルを回して希望のフォーカスモード内容表示を点滅させます。**

3 **Rダイヤルを回して露出モード内容を表示し、Fダイヤルを回して希望の露出モード内容表示を点滅させます。**
同様にRダイヤルを回して測光モード、ドライブモード内容を表示し、Fダイヤルで希望のモード内容を点滅させます。

4 **ポジションダイヤルを“◯”にします。これで変更完了です。**

ピント合わせ

このカメラのピント合わせは、カメラが自動的に行うオートフォーカス（AF）と手動で行うマニュアルフォーカス（MF）があります。
AFには、静止している被写体の撮影など一般的な撮影に便利な“SAF”（シングルAF）と、動きのある被写体を連続的に追う場合に便利な“CAF”（コンティニュアスAF）があります。撮影意図に合わせてご活用ください。

AF補助光について　AF撮影時、被写体が暗いときやコントラストが低くピントが合わせにくい場合は、自動的にAF補助光を被写体を照射してAFの精度を高める機構になっています。この時の照射部は画面の中央になります。AF補助光の有効距離は約4mです。

1. フォーカスフレームの選択

このカメラは画面中央のフォーカスフレームと、対角線上に配置された4つのフォーカスフレームを持っています。
フォーカスフレームは、被写体の位置に応じて任意の１カ所を選択します。
また切り替える操作をしたとき選択したフォーカスフレームが一瞬赤く照明されます。

〈フォーカスフレームの選択〉

フォーカスフレーム選択レバーで任意のフォーカスフレームを選択します。対角線上のフォーカスフレームへは、その方向へレバーを倒します。中央のフォーカスフレームを選ぶときは、レバーをプッシュします。選択したポイントでピント合わせを行います。

● ファインダー内表示が点灯中に選択してください。消灯中はフレーム位置の変更はできません。（ファインダー内表示はシャッターボタン半押しで表示されます。P11）

“CF”選択したフレームのロック

カスタムファンクションの設定をすると選択したフォーカスフレームが不用意に動かないようにロックすることができます。（P87）
この設定をした時は、“LIGHT”ボタンを押しながら、フォーカスフレーム選択レバーでフレームを選択します。

2. オートフォーカスによるピント合わせ

フォーカスモードが“SAF”、“CAF”のときシャッターボタン半押しでオートフォーカスが作動します。
シャッターボタンの半押し時に選択されているフォーカスフレームが一瞬赤く照明されます。また測距の後、ピントを合わせを行ったときにフレームが一瞬赤く照明されます。

1 **フォーカスモードを、“SAF”または“CAF”にセットします。**

● セット方法はP31をご覧ください。

2 **ピント合わせを行うフォーカスフレームを選びます。**

フォーカスフレーム選択レバーでフォーカスフレームを選びます。(P39)

3 **ピントを合わせたい被写体に、選んだファインダー内フォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。自動的にピント合わせが行われ、ピントが合うとピントを合わせたフォーカスフレームが一瞬赤く光って「ピピッ」と電子音が鳴り（＊）、ファインダー内のフォーカス表示“○”が点灯します。**

“○”点灯：ピントが合っています。
“○”点滅：ピント合わせができません。
＊ 電子音はSAF時のみです。

“CF”電子音なしに設定することができます。(P87)

4 **そのままシャッターボタンを押し込んで撮影してください。**

〈“SAF” シングルオートフォーカス〉

静止している被写体の撮影など一般的な撮影の場合におすすめします。

シャッターボタン半押しでピント合わせを行い、一度ピントが合うとその位置でピントを固定（フォーカスロック）します。

●ピントが合うとシャッターが切れ、ピントが合わないとシャッターが切れません。
●ピント合わせができないとき（“○” 点滅）は、等距離にある別の被写体でフォーカスロックして撮影してください。（P42）
●“○” 点滅中でも、シャッターチャンス優先で撮影したいときは、フォーカスボタンを押しながらシャッターボタンを押してください。シャッターを切ることができます。
●ドライブモードが “C”（連続撮影）の時は、最初の写真でピントが固定し、そのピント位置での連続撮影になります。

〈デュアルフォーカスメカニズム〉

デュアルフォーカスメカニズム搭載のレンズ使用時は、フォーカスモードが “SAF” のとき、フォーカス表示 “○” が点灯中に手でレンズの距離リングを回すと、自動的にマニュアルフォーカスに切り替わり、ピントの微調整をすることができます。

〈“CAF” コンティニュアス・オートフォーカス〉

動きのある被写体を連続的に追う場合におすすめします。

シャッターボタンを半押ししている間、連続してピントを合わせ続けます。ピントが合っていることを確認して撮影してください。

●連続撮影 “C” では1コマごとにピントを合わせ続けながらの連続撮影になります。
●“○” が点滅し、ピント合わせができないときでもシャッターボタンを押すとシャッターが切れます。
●被写体の動きや変化により、ピント合わせが連続撮影に追従できない場合があります。

〈フォーカスロック〉
オートフォーカスのとき、構図によってピントを合わせたい被写体がフォーカスフレームからはずれる場合には、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影します。

❖“SAF”シングルオートフォーカスのとき

1 ピントを合わせたい被写体に選択したフォーカスフレームを向けシャッターボタンを半押しします。

ピント合わせが行われ、ピントが合うとファインダー内フォーカス表示“○”が点灯し、その位置でフォーカスロックされます。

2 シャッターボタンを半押ししたまま写したい構図にカメラを戻し、さらにシャッターボタンを押し込んで撮影します。

●シャッターボタンを半押ししている間はピントはロックされていますので、カメラの向きを変えてもピントは変わりません。
●フォーカスロックは、シャッターボタンから指を離すと解除されます。

❖ “CAF”コンティニュアス・オートフォーカスのとき

1 **ピントを合わせたい被写体に選択したフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。**

シャッターボタンを半押ししている間、連続してピントを合わせ続けます。

2 **ファインダー内フォーカス表示が点灯していることを確認して、フォーカスボタンを押してください。**

フォーカスボタンを押したところでフォーカスロックします。

3 **フォーカスボタンを押したまま写したい構図にカメラを戻します。**

フォーカスボタンを押している間、ピントはロックされています。

4 **さらシャッターボタンを押し込んで撮影します。**

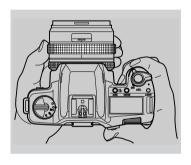
〈オートフォーカスの苦手な被写体〉

オートフォーカス機能を使っても、次のような被写体はピント合わせが難しいので、“○”フォーカス表示が点滅することがあります。このようなときはフォーカスロックを利用して、等距離にある別の被写体に一度ピントを合わせてから撮影を行うか、マニュアルフォーカスでピント合わせを行ってください。

①非常に明るいか非常に暗い被写体。
②被写体のコントラストが極度に低いとき。
③フォーカスフレーム部やその周辺に太陽光などの強い光源があるとき。
④フォーカスフレーム内に極度に距離の違う2つ以上の被写体が共存するとき。
⑤フォーカスフレームに対して非常に小さな被写体
⑥繰り返しパターンが続く被写体。
⑦ＮＤフィルターや偏光フィルターなどにより、被写体からの光量が極端に少なくなった場合。

3.マニュアルフォーカスによるピント合わせ

ピントが合っている。

ピントが合っていない。

〈ピントの合わせ方〉

フォーカスモードを“MF”にセットします。（セットのしかたはP31をご覧ください。）
ピント合わせは、手動でレンズの距離リングを回して行います。
ピントが合っているときは、ファインダー内の像がはっきりと見え、ピントが合っていないとボケます。

〈マニュアルフォーカス時のフォーカス表示〉

マニュアルフォーカス時、ファインダー内のフォーカス表示は、選択されているフォーカスフレームに対する測距結果を表示します。

“○”点灯：被写体にピントが合っている
表示なし ：被写体にピントが合っていません
“○”点滅：ピント合わせができません

●選択されているフォーカスフレームにピントが合った時、フレームが赤く照明されます。

〈ワンショット・オートフォーカス〉

デュアルフォーカスメカニズム搭載レンズ使用時は、マニュアルフォーカス撮影中でもオートフォーカスが使用できます。フォーカスボタンを押すと、押している間カメラがピントを合わせを行い、一度ピントが合うとその位置でピントが固定します。(SAF:シングルオートフォーカスでピント合わせを行います。)
ワンショット・オートフォーカスとしてご利用ください。

" CF " ピント合わせ方法をCAF（コンティニュアス・オートフォーカス）に変更することができます。(P88)

〈フォーカスモードとドライブモードの関係〉

	" SAF "	" CAF "	" MF "
" S " 1 コマ撮影	**シャッターボタン半押しでピント合わせを行い、一度ピントが合うとその位置でピントを固定します。(フォーカスロック)** ●ピントが合わないと、シャッターが切れません。	**シャッターボタンを半押ししている間、連続してピントを合わせ続けます。** ●ピント合わせができなくてもシャッターを切ることができます。	手でレンズの距離リングを回してピント合わせを行います。
" C " 連続撮影	ピント合わせは１コマ撮影と同じ。 連続撮影時は最初のコマ（写真）でピントを固定しての撮影になります。	ピント合わせは１コマ撮影と同じ。 連続撮影時は、１コマごとにピントを合わせ直します。	

〈AF/MF切り替えスイッチ付きレンズ使用上のご注意〉

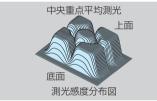
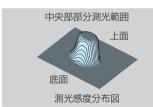
NXにAF/MF切り替えスイッチ付きレンズを取り付けてMFを使用する場合、レンズ側とカメラ側の両方をMFに設定する必要はありません。カメラ側AF（SAFまたはCAF）設定時、レンズ側の切り替えスイッチだけで素早くAF/MF切り替えができます。またカメラ側MF設定時、レンズ側のスイッチをAFに設定するとワンショットAFが使用できます。
各々の組み合わせでの動作は下表のようになります。撮影意図に合わせて使い分けてください。

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">カメラ側のフォーカスモードの設定</th></tr>
<tr><th>SAF</th><th>CAF</th><th>MF</th></tr>
<tr><td rowspan="2">レンズ側の設定</td><td>AF</td><td>SAFで動作します。フォーカスボタンを押している間、フォーカスロックします。</td><td>CAFで動作します。フォーカスボタンを押している間、フォーカスロックします。</td><td>シャッターボタンでのAF作動は行いません。フォーカスボタンによるワンショットAFが使用できます。
●AF作動後の距離リングによる微調整はできません。</td></tr>
<tr><td>MF</td><td colspan="2">距離リングによるMF になります。
●AFによるピント合わせの後、MFでピントの微調整を行う時はレンズ側をMFにしてから行ってください。フォーカスボタンによるワンショットAF は使用できません。</td><td>距離リングによるMFになります。
●フォーカスボタンによるワンショットAFは使用できません。</td></tr>
</table>

◎カメラ側の設定（SAF、またはCAF）が何になっているかが分かるように、オートパワーOFF時には表示パネルのフォーカスモード表示はカメラ側の設定を表示します。

測光方式の選択

このカメラには評価測光と中央重点平均測光及び中央部部分測光の3通りの測光方式があります。（セット方法はP31をご覧ください。）
次ページの『測光方式の種類と特徴』をよくお読みいただき、撮影条件や撮影意図により使い分けると、より精度の高い効果的な写真撮影が行えます。

1. 測光方式の種類と特徴

〈評価測光〉（マーク）

評価測光は、撮影画面を図のように5分割し、それぞれの部分を独立して測光し得られたデータから被写体の条件に最適な露出値を決めます。このため、**一般的な撮影はもちろん、逆光などの撮影でもほとんど露出補正なしに撮影することができます。**

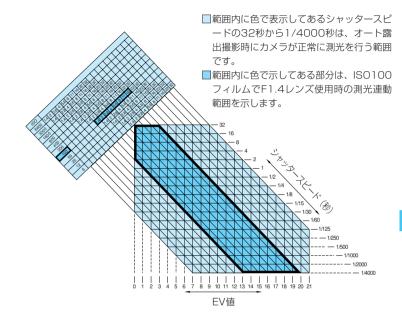
“CF” ファインダー内の露出メーターを、評価測光と中央重点平均測光、あるいは中央部部分測光との測光値の差の表示に変更することができます。

〈中央重点平均測光〉（マーク）

主にファインダー画面中央部の被写体の明るさを重点的に、かつ周辺部の明るさも加味して測光を行い、露出値を決定する方式です。光の変化が激しいところでもよく対応しますので、**一般の撮影はもちろん、動きの激しいものでも容易に露出を決めることができます。**

〈中央部部分測光〉（マーク）

撮影画面の約5%の範囲にあたる被写体の明るさを測光して、露出を決める方式です。たとえば、逆光の人物や特定の部分にライティングを活かした舞台撮影など、**被写体と背景の明るさが極端に違う場合**、また画面効果を考えて、**特に被写体の一部分だけを測光して撮影したい場合**などは、この中央部部分測光を利用します。

2. 測光連動範囲

〈測光連動範囲〉

表は、絞り、シャッタースピード、EV値の相互関係を示すもので、使用レンズの測光連動範囲を表しています。たとえば中央重点平均測光時にISO100のフィルムで50mmF1.4レンズを使用した場合、絞り表のISO100の項の”1.4”と“16”（プラナーT＊50mmの最小絞り値はF16です）から斜めに延長した線上で垂直線（ＥＶ線）と水平線（シャッタースピード線）が交わる点が示す両端の範囲すなわちＥＶ“0”からＥＶ“20”がF1.4レンズの使用時の測光連動範囲です。

※ＥＶ値とは、露出計の連動範囲を示す数値で、外光の明るさが一定のときに、フィルムに同一露光効果を与える絞りとシャッタースピードの組み合わせを示すものです。たとえば、表によりＥＶ13では、F16,1/30秒でもF8,1/125秒でも同じ露光効果が得られることがわかります。

撮影目的に合わせた応用撮影

被写体や撮影目的に合わせて、最適な撮影モードを選択することができます。

1. オート露出撮影

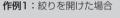
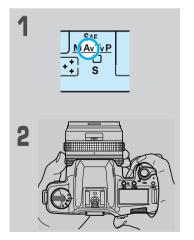
〈1. 絞りを決めて撮る“Av”（絞り優先オート撮影）〉

（AvとはAperture valueの略で絞り量のことです。）

絞りをセットすると、被写体の明るさに応じてカメラが自動的にシャッタースピードをセットします。

作例1：絞りを開けて撮影すると、鮮明に写る範囲（＊被写界深度P68）が狭くなります。被写体を浮かび上がらせ、背景をぼかしたいときなどに利用します。

作例2：絞りを絞り込んで撮影すると鮮明に写る範囲（＊被写界深度P68）が広くなります。被写体も背景も鮮明に写したいときなどに利用します。

作例1：絞りを開けた場合

作例2：絞りを絞り込んだ場合

1 露出モードを“Av”にセットします。

セット方法はP31をご覧ください。

2 レンズの絞りリングを回して絞りをセットし、撮影します。

表示パネルとファインダー内に、セットした絞り値と自動セットされたシャッタースピードが表示されます。

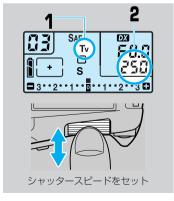
〈2. シャッタースピードを決めて撮る "Tv"（シャッター優先オート撮影）〉

（TvとはTime valueの略で時間量のことです。）

シャッタースピードをセットすると、被写体の明るさに応じてカメラが自動的に絞りをセットします。動きのある被写体などの撮影に適しています。
次の作例を参考に目的に合わせてシャッタースピードを調節してください。

作例1：被写体の動きの瞬間を撮影したいときは、速いシャッタースピードにセットします。
作例2：水の流れ等を表現したいときは、遅いシャッタースピードにセットします。
●遅いシャッタースピードのときはカメラぶれ防止のため、三脚をご使用ください。

作例1：速いシャッタースピード

作例2：遅いシャッタースピード

シャッタースピードをセット

1 露出モードを "Tv" にセットします。

セット方法はP31をご覧ください。

2 Rダイヤルを回してシャッタースピードをセットし、撮影します。
絞り目盛りはどの位置にセットしていてもかまいません。
表示パネルとファインダー内に、セットしたシャッタースピードと自動セットされた絞り値が表示されます。

〈3. プログラムオートで撮る“P”(プログラムオート撮影)〉

あらかじめプログラムされている絞りとシャッタースピードの組み合わせの中から、被写体の明るさに適した組み合わせをカメラが自動的に選びます。露出を気にせず、気楽に撮影するときに便利です。

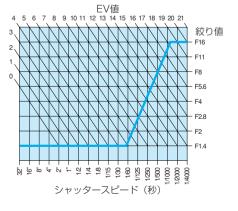
1 露出モードを“P”にセットします。

セット方法はP31をご覧ください。

2 撮影します。

カメラが自動的に選んだ絞り値とシャッタースピードが、表示パネルとファインダー内に表示されます。

〈プログラムオート制御図〉

プログラムオートでの絞りとシャッタースピードの組み合わせは図のようになります。またこのプログラムラインは取り付けたレンズの焦点距離に連動してシフトします。(F1.4/50mmレンズ使用、ISO100にセット)

〈オート露出撮影時の警告表示について〉

露出オーバー警告

絞り優先オート撮影時にはシャッタースピード“4000”が点滅、シャッター優先オート時には装着レンズの“最小絞り値”が点滅、プログラムオート撮影時にはシャッタースピード“4000”が点滅し露出オーバーの警告をします。被写体が明るすぎますので、絞りまたはシャッタースピードを調整し直して、点滅表示が点灯表示になるようにしてください。また別売りや市販のNDフィルター（光量制限用）で光を調整することもできます。

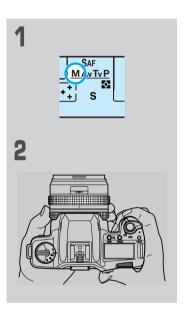
露出アンダー警告

絞り優先オート撮影時にはシャッタースピード“32〃”が点滅、シャッター優先オート時には装着レンズの“開放絞り値”が点滅、プログラムオート撮影時にはシャッタースピード“32〃”が点滅し露出アンダーの警告をします。被写体が暗すぎますので、照明を加えて被写体を明るくしたり、シャッタースピードや絞りを変えて点滅表示が点灯表示になるようにしてください。また、内蔵ストロボや専用のストロボを使うと明るくきれいな写真が撮れます。

●露出オーバー／アンダー警告時でも、シャッターボタンを押せば撮影できます。

2. マニュアル露出撮影

〈1.自分で露出を決めて撮る“M”（マニュアル露出撮影）〉

絞りとシャッタースピードを撮影意図や目的に合わせて任意にセットし、撮影する方法です。また意図的に露出オーバーやアンダーにすることも簡単にできます。ファインダー内露出メーターの表示を参考に露出を決めてください。

1 露出モードを“M”にセットします。

セット方法はP31をご覧ください。

2 絞りとシャッタースピードをセットし、撮影します。

絞りはレンズの絞りリングでセットします。シャッタースピードはRダイヤルでセットします。

ファインダー内と表示パネルに、セットしたシャッタースピードと絞りが表示されます。

ファインダー内露出メーターには適正露出との差が表示されます。シャッタースピードまたはレンズの絞りを変えて、露出メーター表示を“適正”にしてください。

[マニュアル露出モードで露出補正をセットした場合]

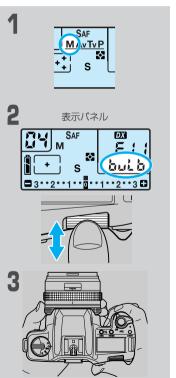
①表示パネルにはセットした露出補正量が表示されます。

②ファインダー内には“+/−”露出補正マークが点滅表示します。

③ファインダー内露出メーターにはセットされた露出補正値に対して、カメラにセットされている絞りとシャッタースピードの組み合わせで得られる露出差が表示されます。

④ファインダー内にはマニュアル露出モードを示す“M”マークが表示されます。

〈2.バルブ撮影“buLb”〉

長時間露光を必要とする夜間撮影や天体撮影を行うときに使用します。

1 露出モードを“M”にセットします。

セット方法はP31をご覧ください。

2 Rダイヤルを回して“buLb”をセットします。

3 レンズの絞りリングで絞りをセットし、撮影します。

シャッターボタンを押している間シャッターが開いて露光されます。

- カメラぶれを防ぐため、三脚で固定するか、安定した台などに置き、別売りのケーブルスイッチＬＡタイプをカメラに接続して撮影してください。
- 露光中、表示パネルのフィルムカウンターはバルブ撮影の経過時間を示すタイマー表示に切り替わります。表示は“00”から“59”（59秒）までカウントされ以後その繰り返しになります。
- 露光中はファインダー内表示がすべて消えます。

3. 露出を補正して撮る

撮影のとき、主要被写体とその背景に極端な明暗差があるために、そのままでは主要被写体に適正露出が得られない場合、あるいは意図的に露出オーバー、アンダーの写真を撮りたいときには、次の3通りの露出補正方法があります。

〈1.任意の補正量を決めて撮る(Av,Tv,Pの時)〉

Fダイヤルを回して、補正量をセットします。

補正量は＋3EV～－3EVの範囲で1/3EVごとにセットすることができます。

露出モード	露出補正する内容
“Av”絞り優先オート	シャッタースピード
“Tv”シャッター優先オート	絞り
“P”プログラムオート	絞りとシャッタースピード

例：－2/3EV補正量セット時

表示パネル

ファインダー内露出メーター

表示パネルにはセットした補正量、ファインダー内露出メーターには補正量と“＋/－”マークが表示されます。

- 撮影終了後は必ず露出補正量を“0”に戻してください。メインスイッチをOFFにするまで、露出補正は継続されます。
- 不用意に補正値が変わらないようにご注意ください。
- マニュアル露出モード時の露出補正表示はP56をご覧ください。

“CF”露出補正を設定解除するまで継続するように設定することができます。(P88)

“CF”不用意に補正値が変わらないように露出補正の設定方法を“LIGHT”ボタンを押しながらFダイヤルを回してセットする方法に変更することができます。(P88)

“CF”露出補正量を1/2ステップに変更することができます。(P87)

1/2EV ステップ表示

使用例

（＋補正）

（補正なし）

逆光撮影などのときは・・・
“＋1/3EVまたは＋1/2EV〜＋3EV”の範囲で補正します。

中央重点平均測光の場合、逆光や明るい空、海をバックにした人物、または窓辺の人物などのように明るい背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出アンダーになり、シルエットのように暗くなります。このようなときは、露出を＋1/3EVまたは＋1/2EV〜＋3EVの範囲で補正して、露出を多く与えます。

（−補正）

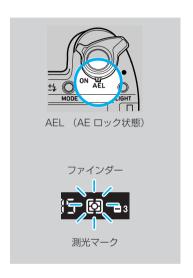
（補正なし）

暗い背景などのときは・・・
“−1/3EVまたは−1/2EV〜−3EV”の範囲で補正します。

スポットライトに照らし出された人物などのように、暗い背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、中央重点平均測光で撮影すると人物は露出オーバーになり白っぽくなります。このようなときは、露出を−1/3EVまたは−1/2EV〜−3EVの範囲で補正して、露出を少なくして撮影します。

〈2.露出を固定して撮る（AEロック）〉

オート露出撮影時に、被写体の露出（絞りとシャッタースピードの組み合わせ）を記憶する機構です。逆光時での撮影など構図によって露出が大きく異なる被写体や動く被写体を一定の露出で連続撮影するときなど、露出を固定したいときに使います。

AEL （AE ロック状態）

ファインダー

測光マーク

1 露出を合わせたい部分にファインダーの中央部を向け、メインスイッチを“ON”→“AEL”に切り替えます。これで露出が固定（AEロック）されます。

特に狭い範囲に露出を合わせたいときは、測光モードを“[●]”（中央部部分測光）にセットしてAEロックしてください。

セット方法はP31をご覧ください。

- AEロック中は、ファインダー内の測光マークが点滅に変わります。
- AEロックのセットは、ファインダー内表示が点灯しているときに行ってください。

2 ファインダーを元の意図した構図に戻して撮影します。

●AEロック中は、露出が記憶され続け、何度でも同じ露出値で撮影できます。表示は省電のため16秒経過後に消灯します。
●連続撮影（ドライブモード“C”）するときも、あらかじめ被写体の明るさをAEロックしておけば背景の変化による影響を受けずに同じ露出の写真が得られます。
●このカメラは、シャッタースピードと絞りの組み合わせで得られる露出を記憶する、像面光量記憶方式を採用しています。例えば、“Av”のときは、AEロック後に絞りを変えるとシャッタースピードも追従して変化し、全体の露出量を一定に保ちます。
●AEロック中に露出補正ダイヤルを変更すると、露出モードにより露出補正内容は次のようになります。

露出モード	露出補正する内容
“Av”絞り優先オート	シャッタースピード
“Tv”シャッター優先オート	絞り
“P ”プログラムオート	絞りとシャッタースピード

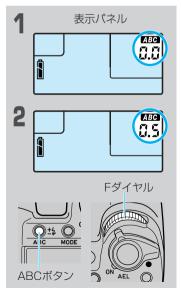
“CF”シャッターボタン半押しで“AEロック”するように変更できます。（P87）

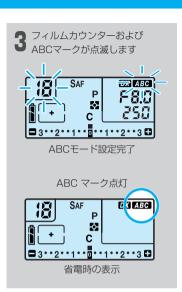
〈3.露出を自動的に3段階変えて撮る（ABC撮影）〉

ABC撮影モードにセットすると、自動的にスタンダード、オーバー、アンダー、と3段階の露出バリエーションで連続撮影ができます。
非常に微妙な露出条件のもとででも、露出決定に気を取られることなくシャッターを押し続け、チャンスを確実にものにすることができます。

※ABC：Automatic Bracketing Control

ABC撮影は、シャッタースピードまたは絞りを制御して自動露出補正を行います。

露出モード	露出補正する内容
“Av”絞り優先オート	シャッタースピード
“Tv”シャッター優先オート	絞り
“P ”プログラムオート	絞りとシャッタースピード
“M ”マニュアル露出	シャッタースピード

1 **ABCボタンを押すとABC設定モードになり、表示パネルに“ABC”マークと“0.0”（補正幅）が表示されます。**

2 **Fダイヤルを回して補正幅を選びます。**
補正幅は“0.3”（1/3EV）、“0.5”（1/2EV）、“1.0”（1EV）の3種類が設定できます。

3 ABCボタンを押すと設定完了です。

表示パネルではフィルムカウンターおよびABCマークが、ファインダー内ではフィルムカウンターが点滅します。

4 被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを押します。

設定しているドライブモードでスタンダード、オーバー、アンダーの順で撮影します。

- ABC撮影を途中で解除するときは、ABC補正幅を“0.0”にしてください。
- **ABC撮影が終了したら、必ずABC補正幅を“0.0”に戻してください。**設定したABC補正幅はカメラ電源を“OFF”にしても記憶されています。

ドライブモード	ABC撮影
S	1コマごとのABC撮影になります。
C	3コマ続けてABC撮影した後、止まります。
⏲	10秒後に連続撮影によるABC撮影になります。

ファインダー内表示例

ABC撮影中は撮影順序を示すため、フィルムカウンターが次のように変化します。

スタンダード：両方の桁が点滅
オーバー　　：左側の桁のみが点滅
アンダー　　：右側の桁のみが点滅

スタンダード

オーバー

アンダー

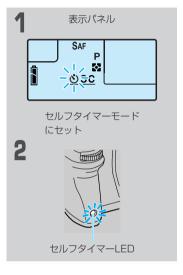
例えば18コマ目からABC撮影を行った場合は次のようになります。

	1コマ目	2コマ目	3コマ目	(以後繰り返し)
補正：	スタンダード	オーバー	アンダー	スタンダード
カウンター：	18	19	20	21
表示：	左右点滅	左側点滅	右側点滅	左右点滅

●ABC撮影で、露出補正を併用するとその補正値を基準にしたABC撮影になります。
●撮影するごとに測光しなおし、その時の測光値に対して補正を行います。周囲の明るさの変化による影響を受けずにABC撮影がしたいときは、あらかじめAEロックをしてから撮影することをおすすめします。
●補正幅がカメラの補正限界を越えるときは、限界補正値で撮影されます。
●ABC撮影の途中でメインスイッチを“OFF”にして再度“ON”にすると、ABC撮影はまた1コマ目より順に3コマ分行われます。
●ストロボを併用するABC撮影はできません。

“CF”補正順序を、オーバー→スタンダード→アンダーに変更することができます。(P87)

4. セルフタイマー撮影

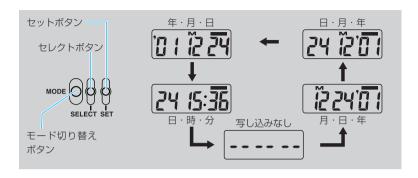
記念撮影など、ご自身も一緒に写りたいときに使用します。

1 ドライブモードを“ ⏲ ”にセットします。

セット方法はP31をご覧ください。

2 ピントを合わせ、シャッターボタンを押してください。

セルフタイマーが作動し、10秒後にシャッターが切れ撮影が行われます。
セルフタイマー作動中、カメラ前面のセルフタイマーLEDが点滅します。

●ファインダーから目を離しての撮影では、接眼部からの入射光の影響で適正露出が得られない場合があります。このような場合は、逆入光防止アダプターをファインダー接眼部に取り付けて撮影してください。(P14)
●セルフタイマー撮影時は三脚をご使用ください。
●バルブ設定時はセルフタイマーは使用できません。
●セルフタイマー作動中にシャッターボタンを押すと、セルフタイマー作動が最初に戻り、再スタートします。
●セルフタイマー作動を途中で中止するときは、メインスイッチをOFFにしてください。

5. 日付け・時刻の写し込み

データバック付カメラの場合は、撮影時に日付や時刻を自動的に写し込むことができます。データバックが付いていないカメラの場合は、別売の「CONTAX データバック D-11」を取り付けてください。

●データバック用電池は工場出荷時にセットされていますのでそのままご使用になれます。

1 写し込むモードを選びます。

モード切り替えボタンを押すごとに、年・月・日⇒日・時・分⇒------（写し込みなし）⇒月・日・年⇒日・月・年に表示が切り替わりますので、希望する表示を出してください。

2 シャッターボタンを押して撮影します。

●表示窓右上の“▬”マークが点滅して、表示が写し込まれたことを示します。
●数字の上に出る“M”表示は月(Month)を表すマークで、写し込みはされません。
●日付や時刻を写し込みたくないときは、------にして撮影します。
●写し込みは写真の右下隅になります。写し込み位置の背景が白や黄色のように明るいときは、数字が読みにくくなることがあります。

〈日付・時刻の修正〉

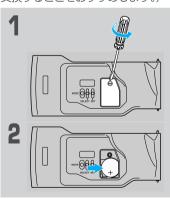
日付け・時刻の修正は次のようにしてください。

①モード切り替えボタンを押して修正するデート表示を出します。
②セレクトボタンを押して修正する数字を点滅させせます。
③セットボタンを押して正しい値に直します。

（時刻表示で：が点滅している場合は秒合わせです。時報に合わせてセットボタンを押すと正確な時間合わせができます。）

④修正が終わったら数字の点滅が消えるまでセレクトボタンを押します。

〈データバック用電池の交換について〉

データバック用電池は、長寿命のリチウム電池(CR2025)を採用しているため約3～4年間は交換不要です。電池が消耗してくると日付けや時刻の写し込みが薄くなったり、液晶表示が正常な表示をしなくなります。この時は図のようにして電池を交換してください。（データバック使用頻度が多い方は、2～3年で交換することをおすすめします。）

1 データバック表面の電池ぶたを固定している止めネジをはずし、ふたを開けます。

2 新しい電池を＋側を表にして電池室内に入れ、ふたを元通りに閉め、固定してください。

● 電池を交換した後は、必ず日付と時刻を合わせ直してください。

⚠ 警告	デート用電池(CR2025)は、特に幼児の手の届かない所に置いてください。万一電池を飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

6. 被写界深度の確認

レンズの一般的性質として、ある被写体にピントを合わせたとき、被写体自身が鮮明に写るだけでなく、その前後にも鮮明に写る範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。ファインダーは常に絞り開放の状態になっていますが、**絞り込みボタンを押すとセットした絞り値まで絞り込まれ、被写界深度の確認と背景のぼけ具合を見ることができます。**

●ファインダー内は絞り値に応じて暗くなります。
●絞り込みボタンを押したまま露出の確認や撮影をしても、適正露出は得られません。

F1.4　F16

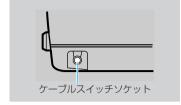
〈被写界深度について〉

同じレンズでの被写界深度は次のように変化します。

①絞りを絞り込むほど被写界深度が深く（前後に広く）、開放にするほど浅く（前後に狭く）なります。

②被写体の距離が遠いほど被写界深度が深く、近いほど浅くなります。

③ピントを合わせた被写体の後方に深く、前方に浅くなります。また異なるレンズでは、焦点 距離の短いレンズほど深く、焦点距離の長いレンズほど浅くなります。

7. ケーブルスイッチソケット

ケーブルスイッチLAタイプを接続します。

- ケーブルスイッチLAタイプを使う撮影で、ファインダーから目を離すオート撮影では接眼部からの入射光の影響で適正露出が得られない場合があります。このような場合は、逆入光防止アダプターを接眼窓に取り付けて撮影してください。(P14)
- ケーブルスイッチソケットには、市販されている一般のメカ方式ケーブルレリーズは取り付けないでください。故障の原因になります。

8. 裏ぶたの交換

カメラの裏ぶたを取り外し、別売のデータバック D-11(P96)と交換することができます。
裏ぶたは、着脱ピンを押し下げて取り外します。

ストロボ撮影

室内や夜間の撮影で、シャッタースピードが1/30秒以下になるときは、ストロボの使用をおすすめします。このカメラの内蔵ストロボまたはコンタックスTLAストロボを組み合わせるとカメラ側でストロボ光を自動制御する“TTLダイレクト測光”による撮影が行えます。
TLA360ストロボをご使用のときは、必ず〈2.当社TLA360ストロボを使用した撮影〉の項 (P78) をご覧ください。
また、X接点のみの汎用ストロボをご使用する場合には、P81をご覧ください。

1. 内蔵ストロボ撮影

〈1.内蔵ストロボによるTTLオートストロボ撮影〉

フィルムに当たる被写体から反射してきたストロボ光量を測光し、ストロボの発光量をコントロールします。（TTLダイレクト測光）

1 内蔵ストロボを手で持ち上げるとストロボの電源が入り充電がスタートします。

充電が完了するとファインダー内に"ϟ"マークが点灯しカメラの露出モードにより次のようにシャッタースピードが自動セットされます。

❖Av（絞り優先オート）のとき

自然光の測光値	自動セットシャッタースピード	表示
32秒 ～ 1/60秒	1/60秒	"60"が点灯
1/60秒～1/125秒	1/60秒～1/125秒	"60"～"125"が点灯
1/125秒～1/4000秒	1/125秒	"125"が点滅(＊)

＊"125"が点滅する時は露出オーバーになります。点滅が点灯になるまで絞りを絞り込んでください。

❖Tv （シャッター優先オート）のとき

セットしたシャッタースピード	自動セットシャッタースピード	表示
32秒～1/125秒	32秒～1/125秒	セットしたシャッタースピード
1/125秒～1/4000秒	1/125秒	"125"が点灯

❖P （プログラムオート）のとき

自然光の測光値	自動セットシャッタースピード	表示
32秒 ～ 1/60秒	1/60秒	"60"が点灯
1/60秒～1/125秒	1/60秒～1/125秒	"60"～"125"が点灯
1/125秒～1/4000秒	1/125秒	"125"が点灯

❖M（マニュアル露出）のとき

- "M"のときはシャッタースピードが自動セットされません。必ず1/125秒以下にセットしてください。
- セットしたシャッタースピードがファインダー内に表示されます。

シンクロ切り替えスイッチ

2 シンクロ切り替えスイッチを“NORMAL”にセットします。

3 次の表に従って、絞りまたはシャッタースピードをセットして撮影します。

露出モード	絞りまたはシャッタースピード
P	カメラが自動的にセットします。
Av、M	絞りをセットしてください。セットした絞りで撮影されます。
Tv	絞りは自然光に合わせた適正絞りに自動セットされます。明るいときは自動的に絞り込みます。

●内蔵ストロボ充電中は“ ϟ ”が点滅します（2回／秒）。また内蔵ストロボ充電中はシャッターを切ることができません。
●撮影後調光が行われたときはファインダー内“ ϟ ”が2秒間速く点滅します(4回/秒)。
●撮影後“ ϟ ”が点滅しないときは被写体が遠すぎてストロボ光が届かず露出アンダーになります。被写体に近づくか絞りを開いて撮影し直してください。リバーサルフィルム使用時はさらに撮影距離範囲が狭くなりますので、次ページの内蔵ストロボ撮影範囲の範囲内で撮影してください。
●近接撮影時“ ϟ ”が撮影後点滅しても露出オーバーになることがあります。次ページの内蔵ストロボ撮影範囲の範囲内で撮影してください。
●ストロボ併用のABC撮影はできません。
●ドライブモードが“C”（連続撮影モード）の場合は、充電完了後シャッターが切れる繰り返しでの連続撮影になります。
●フィルム感度はISO25～800に連動します。（露出補正は含みません。）

4 撮影が終了したら、内蔵ストロボを押し下げて収納してください。

“CF”赤目軽減発光（＊）にセットすることができます。

＊暗いところで人物をストロボ撮影すると、まれに瞳が赤く写る（赤目現象）ことがあります。この赤目現象を軽減させる発光方法です。

●このモードではストロボが約0.7秒間隔で2回発光し、2回目の発光のときシャッターが切れます。1回目の発光後カメラを動かしたり、人物が動かないように注意してください。

●赤目軽減の効果には個人差があります。

内蔵ストロボ撮影範囲　単位：m

フィルム感度 / 絞り値	ISO100	ISO400
F1.4	2.0～9.6（m）	4.0～19.0（m）
F2	1.4～6.7（m）	2.8～13.4（m）
F2.8	1.0～4.8（m）	2.0～9.5（m）
F4	1.0～3.3（m）	1.5～6.6（m）
F5.6	1.0～2.4（m）	1.0～4.8（m）

●内蔵ストロボの照射角は焦点距離28mmまでの画角をカバーします。28mm未満の広角レンズを使用すると画面の周辺まで光が届かず暗く写ります。

●内蔵ストロボを使用する時は必ずフードをはずしてから撮影してください。レンズフードをつけたままストロボ撮影をするとフードでストロボ光がさえぎられ画面が暗くなったり、撮影した画面にフードの影が写る場合があります。

●内蔵ストロボ撮影は被写体と1m以上離れて行ってください。被写体との距離が1m以内で内蔵ストロボ撮影をすると画面の一部がケラレて暗い写真になる場合があります。

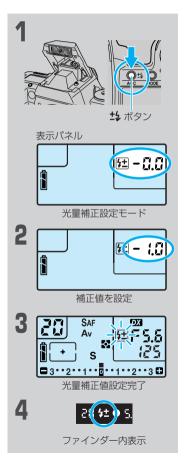
●次のレンズでは内蔵ストロボの光がケラレるため使用できません。以下のレンズでストロボ撮影するときはコンタックスTLAストロボ（TLA200以外）をご使用ください。
・Vario-Sonnar 17-35mm F2.8

●内蔵ストロボの撮影範囲より被写体との距離が遠い場合は、ストロボ光が届かず露出アンダーになります。このような時はガイドナンバーの大きな外付けの当社TLAストロボをご使用ください。

●内蔵ストロボとコンタックス用TLAストロボをアクセサリーシューに取り付けて同時に使用することはできません。

●コンタックス用TLAストロボを使用する時は、内蔵ストロボを収納してから取り付けてください。

〈2.内蔵ストロボの光量補正〉

露出補正と同じ感覚で内蔵ストロボの発光量をカメラで補正することができます。設定できる補正量は－3EV～+1EVです。

1 **内蔵ストロボを持ち上げ、±⚡ ボタンを押すと、光量補正設定モードになります。**

2 **Fダイヤルを回して補正値を設定します。**

3 **±⚡ ボタンを押すと光量補正が設定されます。**

表示パネルは“⚡±”を加えた通常表示に戻ります。またファインダー内表示には“⚡±”が表示されます。

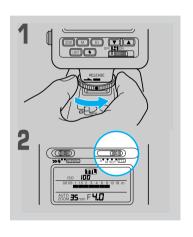
- **設定した光量補正量は**、カメラ電源を“OFF”あるいは内蔵ストロボを収納しても**継続して記憶されています。光量補正撮影終了後、必ず設定を解除してください。**
- **解除する時は補正量を“0.0”に戻します。**

4 **ファインダー内“⚡±”の点灯（充電完了）を確認して撮影してください。**

2. 当社TLAストロボを使用した撮影

当社TLAストロボを使用すると、内蔵ストロボと同様にカメラ側でストロボ光を自動制御して簡単にストロボ撮影を行うことができます。
内蔵ストロボ撮影範囲より遠距離の被写体を撮影したい時やカメラ本体よりストロボを離して使用したい時にご利用ください。

〈1.TTLオートストロボ撮影〉

フィルムに当たる被写体から反射してきたストロボ光量を測光し、ストロボの発光量をコントロールします。（TTLダイレクト測光）

1 カメラのアクセサリーシューにTLAストロボを取り付け、ストロボの電源を入れます。

● 内蔵ストロボとコンタックス用TLAストロボをアクセサリーシューに取り付けて同時に使用することはできません。

2 ストロボを“TTLオートモード”にセットします。

充電が完了するとファインダー内に“ϟ”マークが点灯しカメラの露出モードにより次のようにシャッタースピードが自動セットされます。

❖Av（絞り優先オート）のとき

自然光の測光値	自動セットシャッタースピード	表示
32秒 ～ 1/60秒	1/60秒	“60”が点灯
1/60秒～1/125秒	1/60秒～1/125秒	“60”～“125”が点灯
1/125秒～1/4000秒	1/125秒	“125”が点滅（＊）

＊“125”が点滅する時は露出オーバーになります。点滅が点灯になるまで絞りを絞り込んでください。

❖Tv （シャッター優先オート）のとき

セットしたシャッタースピード	自動セットシャッタースピード	表示
32秒〜1/125秒	32秒〜1/125秒	セットしたシャッタースピード
1/125秒〜1/4000秒	1/125秒	“125”が点灯

❖P （プログラムオート）のとき

自然光の測光値	自動セットシャッタースピード	表示
32秒 〜 1/60秒	1/60秒	“60”が点灯
1/60秒〜1/125秒	1/60秒〜1/125秒	“60” 〜 “125”が点灯
1/125秒〜1/4000秒	1/125秒	“125”が点灯

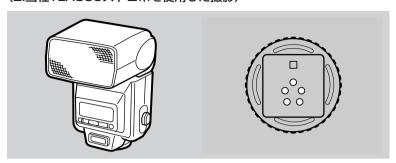
❖M（マニュアル露出）のとき

●“M”のときはシャッタースピードが自動セットされません。必ず1/125秒以下にセットしてください。
●セットしたシャッタースピードがファインダー内に表示されます。

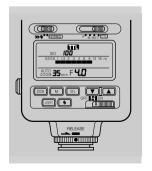
3 次の表に従って、絞りまたはシャッタースピードをセットして撮影します。

露出モード	絞りまたはシャッタースピード
P	カメラが自動的にセットします。
Av、M	絞りをセットしてください。セットした絞りで撮影されます。
Tv	絞りは自然光に合わせた適正絞りに自動セットされます。明るいときは自動的に絞り込みます。

●撮影後、調光が行われたときはファインダー内“ϟ”マークが2秒間点滅します。
●撮影後“ϟ”マークが点滅しないときは露出アンダーになりますので、絞りや撮影距離を変えて撮影し直してください。
●近接撮影時、“ϟ”が撮影後点滅しても露出オーバーになることがあります。ストロボの取扱説明書記載の撮影範囲で撮影してください。
●ストロボ併用のABC撮影はできません。
●ドライブモードが“C”（連続撮影モード）の場合は、ストロボの性能をご確認ください。
●フィルム感度はISO25〜800に連動します。（露出補正は含みません。）

〈2.当社TLA360ストロボを使用した撮影〉

ガイドナンバー36（ISO100･35mmレンズ画角カバー時）の、クリップオンタイプのTTL自動調光方式パワーズームオートストロボです。ストロボオートセットの機能を備えていますので、本機と組み合わせると、従来のTTLオートストロボの機能に加えて次の六つの機能をもった使いやすいストロボです。

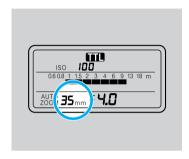
●これらの機能は、カメラ上部のアクセサリーシューに直接ストロボを取り付けた場合のみにご使用いただけます。
TLA延長コードやTLA増灯システムを利用して、カメラのアクセサリーシューから離して使用するときは、ストロボには自動セットされません。

●ストロボオートセット機能を備えた当社TLAストロボはストロボ取り付け脚の接点が5箇所になっています。

①オートセット機能

機能／ストロボ撮影モード	フィルム感度の自動セット	絞り値の自動セット
TTLオート	○	○
外部測光オート	○	×
マニュアル	○	○
マルチ発光	○	○

○：カメラ側のセットによりストロボにも自動セットします。（ストロボ充電完了時）
×：ストロボには自動セットされません。

②照射角のオートセット

カメラに取り付けたレンズの焦点距離に合わせて、自動的にストロボの照射角がセットされます。

❖セットのしかた

カメラのアクセサリーシューにストロボを取り付け、ストロボの電源を“ON”にするとカメラに取り付けたレンズに合わせてストロボの照射角が自動的にセットされます。

このときストロボの表示パネルには、自動セットされた照射角が35mm用レンズの焦点距離で表示されます。

- セットされるレンズの焦点距離は、24mm, 28mm, 35mm, 50mm, 70mm, 85mmです。
- ズームレンズ装着時は、上記の範囲でレンズのズーミングに連動します。
- ストロボの表示が“AUTOZOOM”のときレンズを交換すると、交換したレンズに合わせて照射角が再セットされます。

③照射角の手動セット

ストロボのズームボタンを押すと、手動セットになります。ズームボタンを押すごとにZOOM焦点距離が切り替わりますので、希望の焦点距離を表示パネルに表示します。

④ストロボ光量の補正

“TTLオートストロボ撮影”モードで行います。他のモードでは、補正することができません。

●補正は−3EV〜＋1EVの範囲で1/3ステップごとに行えます。
●ストロボの補正は、カメラの露出補正の値を基準にして発光量を補正します。たとえば、カメラの露出補正を“＋1”、ストロボ側の補正を“＋1”とすると、ストロボの発光量は＋2EVになります。

1 **ストロボの“SEL”ボタンを押します。**

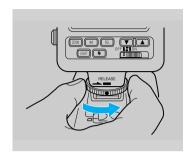
●ストロボの表示パネルに補正目盛が表示され、“+/−”マークが点滅します。

2 **ストロボの“▲”“▼”（アップ／ダウン）ボタンを押して補正目盛を希望する値にします。**

3 **再度“SEL”ボタンを押します。**
“+/−”マークが点灯表示になり、補正のセットが完了です。

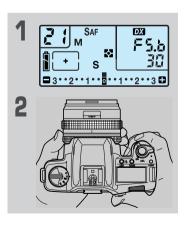
●ストロボ表示パネルの補正目盛は、ストロボ側の補正量を表示します。
●ストロボ側の補正量が“0”（補正しない）ときは、8秒後に補正目盛は消灯します。

⑤“オートOFF”、“オートON”機能

ストロボの電源スイッチを“オートOFF”にセットしたとき、ストロボの電源が約80秒で自動的にOFFになります。またカメラのシャッターボタンを半押しすることで“オートON”になり、ストロボの充電が開始されます。
長時間のストロボ撮影時、省電効果があります。

⑥シューストッパー

TLA360の“取り付け脚”には、ストロボが不用意にカメラからはずれないようにシューストッパー（抜け防止機構）がついています。
カメラの取り付け、取り外しの際は必ず“取り付け脚”の指標にシューロックリングの指標を合わせてから行ってください。

※上記のほかにも多くの特徴を持ったストロボですので、TLA360の取扱説明書を併せてご覧になり、多彩なストロボ撮影をお楽しみください。

3. TLAストロボ以外のX接点を利用できる他のストロボによる撮影

1 カメラにストロボを取り付け、露出モードを“M”にしシャッタースピードを“X125”以下にセットします。

2 絞りをセットして撮影します。

絞りは使用するストロボの取扱説明書に従って決めてください。

- ダイレクト接点ではない、コードを必要とするストロボは、カメラ側面のシンクロターミナルに接続してください。

4. ストロボ撮影のテクニック

スローシンクロ撮影

通常のストロボ撮影

〈1.スローシンクロ撮影〉

ストロボ撮影で夕景や夜景などの情景を生かした撮影を行うには1/30秒以下のスローシンクロ撮影が有効です。内蔵ストロボ及びTLAストロボのTTLオートモードを利用すると簡単な操作でスローシンクロ撮影が行えます。

❖露出モードが“P”、“Av”のとき

構図を決め、メインスイッチを“AEL”にセットします。シャッタースピードが、自然光の測光値にロックされますのでストロボの充電完了を確認して撮影してください。

❖露出モードが“Tv”のとき

シャッタースピードを1/30秒以下にセットします。構図を決め、メインスイッチを“AEL”にセットします。絞りが、自然光の測光値にロックされますのでストロボの充電完了を確認して撮影してください。

❖露出モードが“M”のとき

シャッタースピードを1/30秒以下にセットします。絞りを動かして自然光の測光値に露出を合わせ露出メーターが“適正”になるようにし、ストロボの充電完了を確認して撮影してください。

●スローシンクロ撮影ではシャッタースピードが遅くなりますので、カメラぶれ防止のために三脚をご使用ください。

デイライトシンクロ撮影

ストロボを使用しない場合

〈2.デイライトシンクロ撮影〉

屋外の撮影時に、たとえば強い日差しの下や逆光下でそのまま人物を撮影すると、人物は暗くなりがちです。このようなときは、内蔵ストロボ及びTLAストロボを使ってTTLオートモードで撮影すると人物も背景もきれいに描写することができます。

❖露出モード“P”のとき

明るいところでは、自動的に絞りとシャッタースピードが調整されてデイライトシンクロ撮影になります。

❖露出モードが“Tv”のとき

明るいところでは、自動的に絞りが調整されてデイライトシンクロ撮影になります。

❖露出モードが“Av”のとき

ストロボ充電完了後、シャッタースピードの“125”が点滅した場合は、露出オーバーです。絞りを絞り込んで“125”以下の点灯表示にして撮影してください。

❖露出モードが“M”のとき

“M”のときは、シャッタースピードを1/125秒（×125）以下にセットしてください。絞りを調整し、ファインダー内露出メーターが“適正”になるようにして撮影します。

後幕シンクロ撮影

先幕シンクロ撮影
〈3.後幕シンクロ撮影〉

後幕シンクロは動きのある被写体をスローシンクロ撮影するときに効果があります。

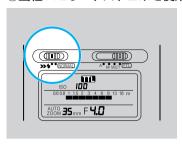
通常のストロボ撮影は、シャッターの先幕が走行を終えた直後にストロボを発光（先幕シンクロ）させて撮影します。内蔵ストロボまたは後幕シンクロ機能のある当社ストロボを使用すると、後幕が走行を始める直前にストロボを発光（後幕シンクロ）させることができます。
ストロボ光で照らされた被写体の後ろに、自然光で照らされた被写体の動きが流れるように写り、自然な動きを表現できます。

①内蔵ストロボによる後幕シンクロ撮影

1 **シンクロ切り替えスイッチを“≫ϟ”にします。**

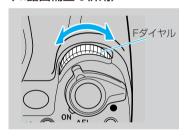
2 **ファインダー内“ϟ”マークの点灯（充電完了）を確認して撮影します。**

●露出制御は、通常のストロボ撮影（先幕シンクロ）と同様です。

②当社TTLオートストロボを使用した後幕シンクロ撮影

1 シンクロ切り替えスイッチを“ ≫ϟ”にします。

2 ファインダー内“ ϟ ”マークの点灯（充電完了）を確認して撮影します。

● 露出制御は、通常のストロボ撮影（先幕シンクロ）と同様です。

〈4.露出補正の併用〉

TTLオートストロボ撮影では、ストロボの発光量はカメラのFダイヤルの露出補正に連動します。ストロボ光量を調整して効果を出したいときは、Fダイヤルを利用してください。

カスタム機能について

このカメラの機能は、さまざまな撮影スタイルに応じて変更することができます。ご自身のスタイルに合わせて設定してください。

1. カスタム機能一覧表

このカメラには、次の表のように、20項目の“カスタム機能”を搭載しています。お買い上げ時は、標準的な機能（内容番号の標準設定“0”）にセットしてあります。（この取扱説明書では“0”の状態を説明しています。）カスタム機能を変更したい場合は「カスタム機能のセットのしかた」（P89）をご覧ください。

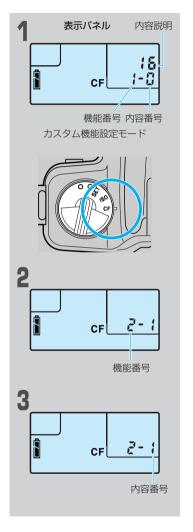
●カスタム機能をセットするとカメラの機能や操作手順が変わります。この「カスタム機能」のページをよくお読みいただき、正しくご使用ください。

〈カスタム機能一覧表〉

内容番号 機能番号	標準設定(0)	変更設定(1)	変更設定(2)	変更設定(3)
① パワーホールド時間 ●照明時間も変更されます。	16秒	12秒	8秒	4秒
② シャッターボタン半押しでAEロック	AEロックしない	AEロックする	――――	――――
③ シャッタータイム設定ステップ	1 Tv	1/2 Tv	――――	――――
④ 露出補正ステップ	1/3EV	1/2EV	――――	――――
⑤ 評価測光時のファインダー内メータ表示	露出補正値	中央部部分測光との差	中央重点平均測光との差	――――
⑥ ABCの順番	適正→オーバー→アンダー	オーバー→適正→アンダー	――――	――――
⑦ AFターゲット設定方法	フォーカスフレーム選択レバー	LIGHTボタン+フォーカスフレーム選択レバー	――――	――――
⑧ AF補助光	発光あり	発光なし	――――	――――
⑨ AF合焦音	合焦音有り	合焦音無し	――――	――――
⑩ シャッターボタン半押し時・スーパーインポーズ	有り	無し	――――	――――

内容番号 機能番号	標準設定(0)	変更設定(1)	変更設定(2)	変更設定(3)
⑪ 合焦時のスーパーインポーズ	有り	無し	————	————
⑫ 巻き戻しオートリターン	オートリターン有り	オートリターン無し	————	————
⑬ 巻き戻し時・フィルムベロ残し	ベロ残し無し	ベロ残し有り	————	————
⑭ 絞り込みボタン操作方法の切り替え	押している間絞り込み	押す毎に絞り込み⇔開放	————	————
⑮ “MF” 時フォーカスボタン機能	SAF	CAF	————	————
⑯ 内蔵ストロボ赤目軽減	赤目軽減発光なし	赤目軽減発光あり	————	————
⑰ 露出補正設定方法(Av, P時)	Fダイヤル	Fダイヤル及びRダイヤル	————	————
⑱ ズームレンズ装着時の絞り値表示(*)	絞りリングに合わせる	ズーミングに連動させる	————	————
⑲ 露出補正の継続時間	電源OFFまで	設定解除まで	————	————
⑳ 露出補正の設定方法	Fダイヤルで設定	LIGHTボタンを押しながらFダイヤルで設定	————	————
CLE：カスタム機能の初期化	カスタム機能（①〜⑳）の内容をすべて標準設定になります。 ●この状態でポジションダイヤルを“CF”以外にすると、それまでセットしたカスタム機能の内容がすべて標準設定“0”に戻ります。			

* このカメラはズーミングによって開放絞り値（明るさ）が変化するレンズ（例：バリオゾナー28-80mm F3.5-5.6）をご使用の場合にも、実絞りはズーミングに連動させずに絞りリングでセットした値になるようにカメラ側で制御します。ズーミングに連動させて絞り値を変化させたい場合はカスタム機能番号⑱を（1）にセットしてください。

2. カスタム機能のセットのしかた

1 ポジションダイヤルを、“CF”にセットします。

表示パネルが図の表示になり、カスタム機能設定モードになります。

2 Rダイヤルを回し“機能番号”を選びます。

3 Fダイヤルを回し“内容番号”を選びます。

4 ポジションダイヤルを“CF”以外の位置にします。

これでセット完了です。

“○”（白）または“●（緑）に戻して撮影してください。

表示パネルが通常の表示に戻ります。

● セットした機能を全て初期化するときは、前記2、で“CLE”を表示させた後、“CF”以外にしてください。

参考資料

1. 写真の基礎知識

〈露出〉

フィルムに光をあてること。
写真の撮影を行うときは、絞り開口量とシャッターの開閉時間により、フィルムにあてる光の量を調節します。

〈シャッタースピード〉

カメラ本体に組み込まれているシャッターはフィルムにあたる光の量を、シャッターが開いている時間の長さで調節します。このシャッターを開いている時間の長さをシャッタースピードと言います。

〈絞り値〉

レンズに組み込まれている絞りは、レンズを通りフィルムにあたる光の量を、開口部を拡げたり縮めたりして調節します。この開口部の大きさを絞り値と言います。

〈フィルム感度〉(ISO値)

フィルム感度は、どの程度の光までフィルムが感応するかをISO (International Standardization Organization・国際標準化機構)で定めた数値で表しています。

2.『故障かな？』とお考えになる前に

『故障かな？』と思われても、修理に出す前にもう一度次の表で症状と解決方法をご確認ください。

症状	原因	解決方法	参照頁
1. 表示パネルに表示が出ない	・電池が入っていない ・電池が完全に消耗している ・電池が逆向きに入っている	・電池を入れる ・新しい電池と交換する ・電池を正しく入れ直す	16 16 16
2. バッテリー警告マーク“▯”が点滅する	・電池が消耗している	・新しい電池と交換する	17
3. フィルムを入れて裏ぶたを閉めたら、フィルムカウンターが“00”で点滅する	・フィルムが正しく送られていません	・フィルムをもう一度入れ直す	20
4. ファインダー内表示がはっきり見えない	・視度が合っていない	・別売の視度補正レンズを取り付けてください。	15
5. シャッターが切れない	・ドライブモードが“セルフタイマー”モードになっている ・内蔵ストロボ充電中	・他のドライブモードに切り替える ・充電完了（“ϟ”点灯）してから撮影する	31 73
6. 写真がぼけている	・ピントが合っていない ・シャッターボタンを押すときにカメラぶれを起こしている ・遅いシャッタースピードになる	・ピントを正しく合わせる ・カメラぶれを起こさないように、シャッターボタンを静かに押します ・三脚をご使用ください	38 19,27

症状	原因	解決方法	参照頁
7.露出補正量が表示されている	・露出補正をかけたままになっている	・露出補正量を“0.0”に戻す ・メインスイッチをOFFにする	58 58
8.オート撮影時、シャッタースピードまたは絞り値が点滅している	・被写体が明るすぎるかまたは暗すぎます	・P54の説明に従って露出を調整します	54
9.フィルムカウンターが点滅している（“00”以外）	・ABC撮影モードになっている	・ABC補正幅を“0.0”に戻す	62
10. シャッターボタンを半押しすると、測光マークが点滅する	・半押しで「AEロックする」が選択されている	・カスタムファンクションを“2-0”にしてください	87

3. シャッタースピードと絞り値の表示について

シャッタースピードおよび絞り値は次のように表示されます。

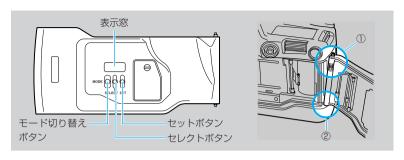
●シャッタースピードの表示は“4000”（1/4000秒）から“32″ ”（32秒）まで表示されます。カメラの露出モードが“Av”、“P”のときは絞りに応じた値を1/2段階ごとに、“Tv”、“M”のときは1段ごとの値を表示します。（“Tv”、“M”時“CF”で1/2段ごとの設定ができます。）

●絞り値は、使用レンズの絞り範囲内で1/2段階ごとに値が表示されます。ただし、1/2段のさらに間で作動するときは近い表示で示されます。たとえば絞り値が3.3のときは“3.5”と表示されます。

シャッタースピード			絞り値
AvまたはP時（TvまたはM時のカスタムファンクション1/2Tvステップ設定時）		TvまたはMのシャッタースピード設定時	全モード
4000	10	4000	1.2
2800	8	2000	1.4
2000	6	1000	1.7
1400	4	500	2.0
1000	3	250	2.4
700	2	×125	2.8
500	0"7	60	3.5
350	1"	30	4.0
250	1"4	15	4.5
180	2"	11	5.6
125	2"8	8	6.5
90	4"	4	8.0
60	5"6	2	9.5
45	8"	1"	11
30	11"	2"	13
20	16"	4"	16
15	22"	8"	19
	32"	16"	22
		32"	27
			32
			38
			45

主なアクセサリー

撮影領域を広げる主なアクセサリーを紹介します。

1. CONTAXデータバックD-11

カメラの裏ぶたと交換して装着するだけで、カメラボディと連動するクオーツ制御の液晶式データバックです。
オートデート機構により日付や時刻を自動的に写し込むことができます。

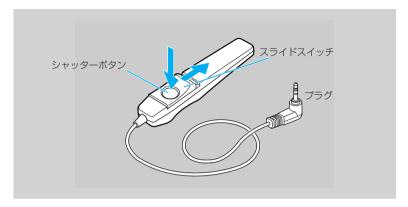
〈カメラへの取り付け〉

1 **カメラに標準装備されている裏ぶたを開き、裏ぶた着脱ピンを押し下げながら取りはずします。**

2 **データバックの取り付け軸の下側をカメラの取り付け穴に差し込み、着脱ピンを押し下げながら上側の軸も取り付け穴に合わせ、着脱ピンから指を離します。これで取り付けは完了です。**

データバックの主な仕様

型式：液晶表示式クオーツ時計内蔵（オートカレンダー）
写し込み機能： 年・月・日／日・時・分／写し込みなし／
月・日・年／日・月・年
写し込み方法：シャッター作動に連動した自動写し込み
フィルム感度設定：自動設定
電源：3Vリチウム電池（CR2025）
寸法：139（幅）×62（高さ）×12（奥行き）mm
質量：75g（電池別）
＊仕様・外観の一部を予告なく変更することがあります。

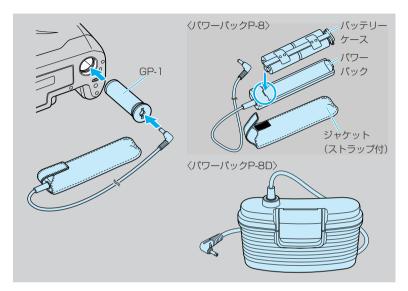
2. CONTAXケーブルスイッチLAタイプ

ケーブルスイッチLAタイプは、三脚などを利用しての接写や望遠撮影、あるいはカメラから離れてシャッターを切るときに使用します。特に接写や望遠撮影ではシャッター時のカメラぶれを防ぐことができます。撮影はケーブルスイッチのシャッターボタン（半押し機能付）で行いますが、長時間露光や連続撮影に便利なスライドスイッチを設けてあります。
コードの長さはLA - 50が50cm、LA - 500が5mです。

〈取り付け〉

ケーブルスイッチのプラグをカメラのケーブルスイッチソケットに差し込みます。

〈撮影〉

ケーブルスイッチのシャッターボタンを押すと、カメラのシャッターボタンと同じ働きをします。半押しで測距·測光·フォーカスロック等、全押しでシャッターが切れて撮影が行われます。長時間露光または連続撮影を行うときは、スライドスイッチを利用すると便利です。スイッチを手前に引くと（赤い指標が見えます）、その間シャッターが作動を続け、元に戻すとシャッターが閉じて撮影が終わります。

3. CONTAXパワーパックP-8,P-8D

パワーパックP-8は、1.5V単3形乾電池4本、または1.2V単3形ニッケル水素電池4本を使用する外部電源です。寒冷地など、気温の低い場所で、寒さの影響による電池の低下を防ぐために、カメラの外部で電源を保温しながら撮影するために利用します。
またパワーパックP-8Dは、1.5V単1形乾電池4本を使用する外部電源です。多量の撮影時に使用します。用途に合わせてご利用ください。
＊CONTAX NXに使用する時は、別売のCONTAXパワーパックアダプターGP-1が必要です。

〈取り付けかた〉

1. カメラにパワーパックアダプターGP-1を取り付けます。
カメラのリチウム電池を取り出し、代わりにGP-1をはめ込み、回して固定します。
●取りはずした電池ぶたは、大切に保管してください。

2. パワーパックに電池を装填します。

[P-8の場合]

①パワーパックP-8に付属しているバッテリーケースに、表示に従って単3形電池4本を入れP-8本体に取り付けます。

②P-8本体をジャケット（ケース）に入れます。

[P-8Dの場合]

P-8Dに同梱されている取扱説明書に従って電池を装填してください。

3. パワーパック・コード先端のプラグを、アダプターGP-1のソケットに差し込みます。

- 撮影の際に、P-8を防寒具の内側などに入れると、より保温の効果を高めることができます。
- 電池を交換するときは、種類の違うものや古いものを混ぜたりしないで、4本とも同じ種類の新品電池を同時に交換してください。
- パワーパックを長時間使用しないときは、電池の漏液を防ぐため、バッテリーケースから電池を取りはずしておいてください。
- 接続コードの取りはずしは、コードを引っぱらずにプラグ部を持って行ってください。

■P-8の仕様

構成： パワーパック本体、バッテリーケース、ジャケット（ストラップ付き）、コードの長さ：1.5m

電源： 1.5V単3形乾電池4本、または1.2V単3形ニッケル水素電池4本（単3形マンガン乾電池は電池容量が少ないためご使用になれません。）

■使用電池と撮影本数

（使用レンズ：VS28-80/3.5-5.6、使用フィルム：24枚撮りフィルム）

使用電池：1.5V単3形アルカリ乾電池

条件A：至近⇔∞を1往復、1回レリーズ後16秒放置

	常温（20℃）	低温（−10℃）
ストロボ発光なし	約20本	約12本
ストロボ50%発光	約10本	約　6本
ストロボ100%発光	約　8本	約　4本

条件B：至近⇔∞を1往復、1回レリーズ後4秒放置

	常温（20℃）	低温（−10℃）
ストロボ発光なし	約50本	約25本
ストロボ50%発光	約15本	約　8本
ストロボ100%発光	約10本	約　5本

使用電池：1.5V単3形リチウム電池

条件A：至近⇔∞を1往復、1回レリーズ後16秒放置

	常温（20℃）	低温（−10℃）
ストロボ発光なし	約60本	約25本
ストロボ50%発光	約25本	約15本
ストロボ100%発光	約15本	約12本

条件B：至近⇔∞を1往復、1回レリーズ後4秒放置

	常温（20℃）	低温（−10℃）
ストロボ発光なし	約150本	約50本
ストロボ50%発光	約　40本	約20本
ストロボ100%発光	約　20本	約15本

使用電池：1.2V単3形ニッケル水素電池（フル充電して使用したとき）

条件A：至近⇔∞を1往復、1回レリーズ後16秒放置

	常温（20℃）	低温（−10℃）
ストロボ発光なし	約30本	約25本
ストロボ50%発光	約15本	約12本
ストロボ100%発光	約10本	約　8本

条件B：至近⇔∞を1往復、1回レリーズ後4秒放置

	常温（20℃）	低温（−10℃）
ストロボ発光なし	約80本	約60本
ストロボ50%発光	約20本	約15本
ストロボ100%発光	約15本	約10本

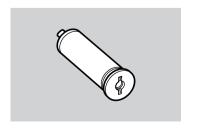
■P-8Dの仕様

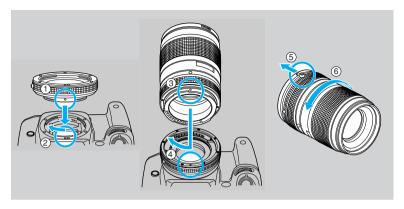
型式：コンタックスカメラの外部電源装置コードの長さ：1.5m

電源：1.5V単1形アルカリ乾電池4本、または単1形ニッケル水素電池4本
（単1形マンガン乾電池は電池容量が少ないためご使用になれません。）

コード長：約1.5m

寸法、質量：148（幅）×84（高さ）×58（奥行き）mm
160g（電池含まず）

4. CONTAX パワーパックアダプター GP-1

CONTAX NXに外部電源CONTAXパワーパックP-8およびP-8D（別売）を使用するためのアダプターです。

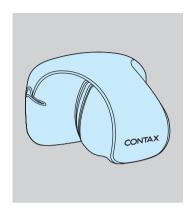
5. CONTAX マウントアダプターNAM-1

CONTAX NXにCONTAX 645システムのレンズを使用出来るアダプターです。NXの全ての機能が使用できます。

〈マウントアダプターとレンズの取り付けかた〉

1. マウントアダプターのボディ取り付け指標①をカメラのレンズ指標②に合わせてはめ込み、矢印方向に回して取り付けます。
2. レンズの指標（赤色）③をアダプターのレンズ取り付け指標④に合わせ、矢印方向に回して取り付けます。

〈取り外しかた〉

1. レンズを取り外すときは、マウントアダプターの取り外しボタンを矢印方向⑤にスライドさせたまま、反時計方向⑥に回して取り外します。
2. マウントアダプターを取り外すときは、カメラのレンズの取り外しボタンを押しながらマウントアダプターを反時計方向に回して取り外します。

6. フレックスケースC-9

ケース先端部を伸縮させることにより、データバックD-11を装着したCONTAX NXに以下のカールツアイスT＊レンズを装着したまま収納することができます。（645マウントレンズはマウントアダプターNAM-1併用）

収納可能レンズ（フィルター1枚、レンズキャップ、フードを収納状態（逆向）にして装着）			
ケース	先端部の状態	Nマウントレンズ	645マウントレンズ
C-9	縮めた状態	VS28-80/3.5-5.6 P50/1.4	P80/2
	伸ばした状態	VS70-200/3.5-4.5 VS24-85/3.5-4.5 VS17-35/2.8＊ （＊フードなし）	S140/2.8 D55/3.5

＊MS100/2.8、VS70-300/4.0-5.6、及び645マウントレンズのAMP120/4、D45/2.8、D35/3.5（＊フードなし）を取り付けて収納する場合は、フレックスケースC-8（N-1用）をご使用ください。

主な仕様

型式	：	35mmフォーカルプレン式AF/AE一眼レフカメラ
画面サイズ	：	24×36mm
レンズマウント	：	コンタックスNマウント
シャッター形式	：	縦走行フォーカルプレンシャッター
シャッタースピード	：	**Av、Tv、P：**32秒〜1/4000秒 **M：**32秒〜1/4000秒、およびバルブ（buLb） **X：**1/125秒（Mモード時）
シンクロ接点	：	X接点（1/125秒以下で同調） ダイレクト接点、およびシンクロターミナル付き
セルフタイマー	：	電子式、作動時間10秒
シャッターレリーズ	：	電子レリーズ方式、専用ケーブルスイッチソケット付
露出制御	：	①絞り優先オート②シャッター優先オート③プログラムオート ④マニュアル露出⑤ＴＴＬオートストロボ
測光方式	：	ＴＴＬ評価測光／中央重点平均測光／中央部部分測光切り替え式
測光連動範囲 **(ISO100,F1.4)**	：	評価測光：EV 0〜21 中央重点平均測光：EV 0〜20 中央部部分測光：EV 3〜20
フィルム感度連動範囲	：	DXコードによる自動設定時 ・・・ISO 25〜5000 マニュアル設定時・・・・・・・・・ISO 6〜6400
AEロック	：	像面光量記憶方式
露出補正	：	＋3EV〜－3EV（1/3または1/2ステップで設定可能）
ABC機構	：	ABCボタンとFダイヤル設定による露出補正 補正幅±1/3ＥＶ／±1/2ＥＶ／±１ＥＶ
内蔵ストロボ	：	ガイドナンバー13.5（ISO100)、焦点距離28mmまで対応、赤目軽減予備発光
ストロボ調光連動方式	：	TTLダイレクト調光方式
ストロボ同調	：	ストロボの充電完了によりシャッタースピード自動切り替え
ストロボオートセット機能	：	ストロボオートセット機能付き当社ストロボと組み合わせることにより可能
後幕シンクロ	：	**内蔵ストロボおよび**後幕シンクロ機能のある当社ストロボと組み合わせることにより可能
測距方式	：	5点TTL位相差検出方式
ファインダー	：	ペンタプリズム使用のアイレベル型（ロングアイポイント式） ・視野率・・・・・93%・倍率・・・・・・0.78倍 （50mm標準レンズ無限遠、視度－1Dのとき）
視度補正	：	別売FLタイプを装着して補正、8種類あり

フォーカシングスクリーン：固定式、全面マットタイプ
ファインダー内表示： フォーカスフレーム、フィルムカウンター／セルフタイマー時間／A·B·C撮影順序／フィルム装着状況、ストロボマーク、光量補正マーク、フォーカス表示、絞り値、シャッタースピード、測光マーク、露出メーター、露出補正マーク、マニュアル露出マーク
表示パネル： フィルムカウンター／セルフタイマー時間／A·B·C撮影順序／バルブ経過時間／フィルム装着状況、電池容量表示、測距点表示、フォーカスモード（マニュアルフォーカス。シングルオートフォーカス、コンティニュアス・オートフォーカス）、露出モード（マニュアル露出、絞り優先オート、シャッター優先オート、プログラムオート）、測光表示（中央部部分測光、中央重点平均測光、評価測光）、ドライブモード（セルフタイマー撮影、1コマ撮影、連続撮影）、DX/ISOマーク、A.B.C補正マーク、内蔵ストロボ光量補正マーク、絞り値／A.B.C補正量／内蔵ストロボ光量補正量、シャッタースピード／フィルム感度／カスタムファンクション、露出補正量、CFマーク
フィルム装填： オートローディング式
フィルムカウンター“01”までの空送り機構付き
フィルム巻き上げ： 内蔵モーターによる自動巻き上げ
フィルム巻き戻し： 内蔵モーターによる自動巻き戻し（オートリターン／オートストップ機構）途中巻き戻し可能
ドライブモード： 1コマ、連続、セルフタイマー10秒
巻き上げ速度： 連続撮影（“C”モード）最高約2.3コマ/秒
（新品電池使用、常温、当社撮影基準による）
フィルムカウンター： 表示パネル、ファインダー内とも自動復元順算式
アクセサリーシュー： ダイレクトX接点（TLAストロボ連動接点付）
カスタム機能： P86カスタム機能一覧表参照
裏ぶた： 裏ぶた開放レバーによる開閉式、着脱可能、フィルム確認窓付
電源： 3Vリチウム電池（CR2）2個使用
バッテリーチェック： 自動チェック式、表示パネルに表示

フィルム撮影本数　：新品電池使用、当社撮影基準による
使用レンズ　：VS28-80/3.5-5.6
使用フィルム：24枚撮りフィルム

条件A：至近⇔∞、1往復、1回レリーズ後16秒放置

	常温（20℃）	低温（−10℃）
ストロボ発光なし	約25本	約12本
ストロボ50%発光	約　8本	約　5本
ストロボ100%発光	約　5本	約　3本

条件B：至近⇔∞、1往復、1回レリーズ後4秒放置

	常温（20℃）	低温（−10℃）
ストロボ発光なし	約60本	約25本
ストロボ50%発光	約10本	約　8本
ストロボ100%発光	約　7本	約　4本

その他　：絞り込みボタン、AF補助光付
寸法、質量　：NX　：142（幅）×113（高さ）×66（奥行き）mm
605ｇ（電池別）
NXD：142（幅）×113（高さ）×66（奥行き）mm
625ｇ（データバック付、電池別）

※仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。本製品の機能をフルに活用していただくためにも、交換レンズ、およびアクセサリー類は当社製品のご使用をおすすめします。コンタックス用として市販されている他社商品を使用して生じた事故や故障については当社では保証いたしかねます。